

高橋雄豹博士著作目録（再訂稿）（第二十一次補正稿）

（令和4（2022）年8月11日（木）現在）

〔目 次〕

〔作成経緯〕	2
〔補正経緯〕	3
はじめに	（省略）
I 略年譜	6（省略）
II 著作目録	7
(I) 著書・共著	7
(参考) 中訳本の件	13
(II) 編書その他	13
(III) 論説その他	15
(IV) 関係文献	31
III 高橋雄豹博士関連文献	34
IV 高橋雄豹博士の幻の明治警察史研究関係処女論文発見記—「我国に於ける警察署制度の成立と変遷」（昭和2（1927）年）—	37
V 高橋雄豹博士（1889～1979）の処女著書『日本警察法正義（要義？）』乃至『警察法大綱』覚書	40
VI 高橋雄豹博士関係編著『静岡県政史話』について—「高橋雄豹博士著作目録」補遺—	45
VII その他	47
【附録】明治警察史コーナーHP項目一覧（抄）	48
【関連事項】	49
（目次再掲）	50

〔作成経緯〕

(註: 現在作成中のものは「再訂稿」である。ある段階で完成させ、次は「三訂稿」としたい。)

平成 17 (2005) 年 5 月 1 日初稿作成

平成 19 (2007) 年 3 月 1 日改訂稿作成

(HP 初載) : 再訂稿作成中 (第一次補正稿) : 平成 19 (2007) 年 8 月 3 日作成

再訂稿作成中 (第二次補正稿) : 平成 19 (2007) 年 12 月 18 日作成

再訂稿作成中 (第三次補正稿) : 平成 20 (2008) 年 3 月 13 日作成

再訂稿作成中 (第四次補正稿) : 平成 20 年 3 月 22 日作成

再訂稿作成中 (第五次補正稿) : 平成 20 年 3 月 30 日作成

再訂稿作成中 (第六次補正稿) : 平成 20 年 4 月 14 日作成

再訂稿作成中 (第七次補正稿) : 平成 20 年 5 月 31 日作成

再訂稿作成中 (第八次補正稿) : 平成 20 年 6 月 8 日作成

再訂稿作成中 (第九次補正稿) : 平成 20 年 6 月 13 日作成

再訂稿作成中 (第十次補正稿) : 平成 20 年 7 月 15 日作成

再訂稿作成中 (第十一次補正稿) : 平成 20 年 7 月 27 日作成

再訂稿作成中 (第十二次補正稿) : 平成 20 年 10 月 4 日作成

再訂稿作成中 (第十三次補正稿) : 平成 20 年 11 月 25 日作成

再訂稿作成中 (第十四次補正稿) : 平成 22 (2010) 年 4 月 28 日作成

再訂稿作成中 (第十五次補正稿) : 平成 23 (2011) 年 1 月 21 日作成

再訂稿作成中 (第十五次補正稿) : 平成 23 (2011) 年 1 月 21 日作成

再訂稿作成中 (第十六次補正稿) : 平成 24 (2012) 年 9 月 21 日 (金) 作成

再訂稿作成中 (第十七次補正稿) : 平成 24 (2012) 年 12 月 21 日 (金) 作成

再訂稿作成中 (第十八次補正稿) : 平成 26 (2014) 年 5 月 18 日 (日) 作成

再訂稿作成中 (第十九次補正稿) : 平成 26 (2014) 年 7 月 9 日 (水) 作成

再訂稿作成中 (第二十次補正稿) : 平成 27 (2015) 年 1 月 11 日 (日) 作成

(参考) 警察政策学会警察史研究部会編『令和元年度警察史研究部会特別調査研究報告書
近代警察史関係文献目録抄—川路大警視検討を中心に—』(警察政策学会資料・別冊。

令和元 (2019) 年 10 月 1 日刊)「第 2 編 第 1 高橋雄豺博士」(67~117 頁)あり。(令
和 4 (2022) 年 8 月 11 日 (木) 追記)

再訂稿作成中 (第二十一次補正稿) : 令和 4 (2022) 年 8 月 11 日 (木) 作成

〔補正経緯〕

・本著作目録は、『高橋雄豹博士・田村豊氏・中原英典氏等略年譜・著作目録並びに『警察協会雑誌』資料一斑等—明治警察史雑纂 第二輯—』（平成19年3月1日刊、CD版有。）1～27頁掲載の「高橋雄豹博士略年譜・著作目録（改訂稿）—日本警察史研究者著作目録（1）—」を、改題の上、更に再訂しつあるものである。

（HP初載：第一次補正稿：平成19年8月3日作成）

・昭和15年、昭和17年所載各「ヘーン大尉のことども」について補正するとともに、誤植を一、二正した。

（第二次補正稿：平成19年12月18日作成）

・「《資料》米国警察制度と新警察制度 法律新報第743号（昭和23年2月号、2月1日刊）」その他を追加した。

（第三次補正稿：平成20年3月13日作成）

・高橋雄豹博士の処女著書である『警察法大綱』の件について修正するとともに、「V 高橋雄豹博士の処女著書『警察法大綱』覚書」を新たに追加した。また、その他、一、二修正した。

（第四次補正稿：平成20年3月22日作成）

・第四次補正稿を更に補正するとともに、「V 高橋雄豹博士の処女著書『警察法大綱』覚書」を、「V 高橋雄豹博士（1889～1979）の処女著書『日本警察法正義（要義？）』ないし『警察法大綱』覚書」に改めた。

（第五次補正稿：平成20年3月30日作成）

・『ジュリスト』第310号（昭和39年11月15日刊）、日本歴史学会『日本史研究者辞典』（吉川弘文館、平成11年6月1日刊）及び『日本史文献事典』（弘文堂、平成15年12月15日刊）関係記事等を追加するとともに、「V 高橋雄豹博士（1889～1979）の処女著書『日本警察法正義（要義？）』ないし『警察法大綱』覚書」を中心に、上記第五次補正稿を更に補正した。

（第六次補正稿：平成20年4月14日作成）

・『内務省外史』（大霞会、昭和52年11月11日刊）等の記載を補充するとともに、上記第六次補正稿を更に補正した。

（第七次補正稿：平成20年5月31日作成）

・従前の「(II) 編書その他」中の「(調査中)『静岡県誌』（昭和2～4年？）（静岡県内務部長時代、執筆者：吉江勝保、青柳秀夫、小畑治和）」を、「『静岡県政史話』（静岡県、昭和4年5月20日刊）」に訂正するとともに、関連記載を修正した。また、新たに、「VI 高橋雄豹博士関係編著『静岡県政史話』について—「高橋雄豹博士著作目録」補遺—」を追加した。

（第八次補正稿：平成20年6月8日作成）

・『大霞』（大霞会刊）第4号（昭和34年1月刊）～第38号（昭和42年7月刊）（ただし、第1～3、12、13、31号及び第39号以下は現在未見）により、新たに二、三補充するとともに、これにより、既載部分で修正すべきは改めた。

（第九次補正稿：平成20年6月13日作成）

・『大霞』（大霞会刊）第39号（昭和42年10月刊）～第101号（昭和60年10月刊）（ただし、第1～3、12、13、31号及び第102号以下は現在未見）により、新たに二、三補充するとともに、これにより、

既載部分で修正すべきは改めた。

(第十次補正稿: 平成 20 年 7 月 15 日作成)

・『大霞』(大霞会刊) 第 102 号(昭和 61 年 1 月刊)～第 155 号(平成 20 年 7 月刊、最新号)(ただし、第 1～3、12、13、31 号は現在未見)により、新たに二、三補充するとともに、これにより、既載部分で修正すべきは改めた。加えて、全体にわたり、遺漏その他気付いた諸点を訂正した。なお、この機会に、別稿『大霞』発行表(初稿)(平成 20(2008)年 7 月 27 日初稿作成)を作成し、HP に掲載した。

(第十一次補正稿: 平成 20 年 7 月 27 日作成)

・『日本警察法正義(要義?)』及び『警察法大綱』関係の記載を補い、また、『交通警察概論』(清水書店、大正 15 年 6 月 25 日刊)の中訳本の件を追加するとともに、全体にわたって、誤植等を正した。

(第十二次補正稿: 平成 20 年 10 月 4 日作成)

・「V」中で、関西大学講師 法学士草刈 融・前警務長植松金章共著『註釈 警務全書』(詳論篇、東京 松華堂蔵版、明治 44 年 5 月 9 日刊、大正 9 年 8 月 30 日増訂 24 版刊)の著者の一人で、同著のそもそもの発案者であった植松金章につき言及するとともに、「[参考]「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の件」を註記した。また、全体にわたって、誤植等を正した。

(第十三次補正稿: 平成 20 年 11 月 25 日作成)

・『自警』関係記事中、確認し得た件を追加した。

・「(追記) 前有松(英義) 警保局長序 関西大学講師 法学士草刈融・前警務長植松金章共著『註釈 警務全書』(詳論篇、東京 松華堂蔵版、明治 44 年 5 月 9 日刊、大正 9 年 8 月 30 日増訂 24 版刊)について」中「植松金章」について補正、追加した。

(第十四次補正稿: 平成 22 年 4 月 28 日作成)

・『警察の実務と教養』(松華堂書店、昭和 8 年 2 月 6 日刊)の台湾での中訳本(平成 12(2000)年刊)の件を追加した。

(第十五次補正稿: 平成 23 年 1 月 21 日作成)

・「II 著作目録」冒頭に(追記)として、「国立国会図書館のデジタル化資料」(<http://dl.ndl.go.jp/>)サービスの件に言及した。他日の課題である。

(第十六次補正稿: 平成 24 年 9 月 21 日作成)

・「II 著作目録 (IV) 関係文献」に大日方純夫(1950～)「私の研究転換—人民闘争史から警察史へ— 歴史家の本棚 第 II 架 (21)」『日本古書通信』第 998 号(2012(平成 24)年 9 月号) 11 頁等を追加した他、一、二補正した。

(第十七次補正稿: 平成 24 年 12 月 21 日作成)

・「警邏勤務論」『警察講習所第二期短期本科講義録』(下巻)(警察講習所学会、昭和 11 年 5 月 24 日刊)等を追加した。

(第十八次補正稿: 平成 26 年 5 月 18 日作成)

・「III 高橋雄彦博士関連文献」に田村正博氏「警察法の 60 年—理念とプラクティスの変化—」(『警察学論集』第 67 巻第 7 号)を加えた他、一、二補正した。

(第十九次補正稿: 平成 26(2014)年 7 月 9 日(水)作成)

・雑誌『刑事警察』関係記事につき補正した。その他誤植等を訂正した。

(第二十次補正稿: 平成 27(2015)年 1 月 11 日(日)作成)

- ・（参考）警察政策学会警察史研究部会編『令和元年度警察史研究部会特別調査研究報告書 近代警察史関係文献目録抄—川路大警視検討を中心に—』（警察政策学会資料・別刷。令和元（2019）年10月1日刊）「第2編 第1 高橋雄毅博士」（67～117頁）あり。（令和4（2022）年8月11日（木）追記）
- ・レイアウトを全面変更するとともに、一部補正追加した。

（第二十一次補正稿：令和4（2022）年8月11日（木）作成）

はじめに

(省略)

I 略年譜 (高橋雄豺 (ゆうさい、1889～1979))

(省略)

(『日本近現代人物履歴事典』(東京大学出版会、平成14年5月20日刊)305頁はじめ下記「Ⅲ 高橋雄豺博士関連文献」等により作成済。)

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E6%A9%8B%E9%9B%84%E8%B1%BA>)

(平成24年12月21日追加)

(追記)

・警察政策学会警察史研究部会編『令和元年度警察史研究部会特別調査研究報告書 近代警察史関係文献目録抄—川路大警視検討を中心に—』(警察政策学会資料・別刷。令和元(2019)年10月1日刊)「第2編 第1 高橋雄豺博士」(67～117頁)中に「2 略年譜」(67～70頁)あり。

(<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/detail/R300000001-I030097052-00>)

(<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130566851810396416>)

(令和4年8月11日追加)

II 著作目録

(追記)

最近「国立国会図書館のデジタル化資料」〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉サービスが開始されたことにより、高橋雄豺博士の著作についても本目録で従来未掲載であったものがかなり判明した。本来ならば、一々照合して記載すべきではあるが、諸般の事情により現時点では無理なため、ここではただその旨を記しておくにとどめる。詳しくは上記「国立国会図書館のデジタル化資料」〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉「館内限定公開資料を含める」をチェックの上「高橋雄豺」で検索のこと。(平成24年9月21日追加)

「国立国会図書館次世代デジタルライブラリー」〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉で再検討の要あり。(令和4(2022)年8月11日追加)

(I) 著書・共著

(凡 例)

- ① 「私の書いた本」致遠第25号(昭和35年6月15日刊)は、処女作から当時に至る単行著作に言及しており、貴重である。
- ② 上記によれば、大正7(1918)年刊の『日本警察法正義(要義?)』は、後年『警務全書』中に収録された由であるが、詳細不明で調査中のところ、平成20年4月に一部内容が判明したので、その旨追記した。
- ③ 上記によれば、「明治警察史研究」の当初構想は、第1巻 明治年代の警察幹部教養、第2巻 明治年代の大事件(日比谷焼打事件)、第3巻 明治年代の大事件(湖南事件、選挙大干渉、李鴻章狙撃事件、大逆事件)、第4巻 警保局長と警察部長、第5巻 明治警察史の5巻であったが、第3巻に予定された「大逆事件」及び第5巻の通史は刊行されていない。
- ④ 「支局から本社へ指令した人」『長谷川才次』(『長谷川才次』刊行会、昭和54年3月10日刊)には、長谷川才次(1903～1978)が刊行した高橋博士の著作のことが書かれており、これもまた貴重である。ここでは、著作は23冊といている。下記29冊中17、18、23等はずすのか?

大正7(1918)年

1 日本警察法正義(要義?) 松華堂(大正7年11月26日刊、未見)

(後掲1-2 遅くとも、前有松(英義)警保局長序 関西大学講師 法学士草刈 融・前警務長植松金章共著『註釈 警務全書(詳論篇)』(東京 松華堂蔵版、明治44年5月9日刊、大正9年8月30日増訂24版刊)、草刈融著『註釈 警務全書(増訂版)』(松華堂、大正11年11月20日増訂32版刊、大正12年11月25日増訂44版刊)中に、「警察法大綱」として転用。後掲5『改訂 警察法大綱』松華堂(昭和2年8月7日(7月14日)改訂再版刊)の前身。)

(『日本警察法正義(要義?)』:高橋雄豺「私の書いた本」『致遠』第25号(昭和35年6月15日刊)126頁に拠る。詳しくは、後掲「V 高橋雄豺博士(1889～1979)の処女著書『日本警察法正義(要義?)』ないし『警察法大綱』覚書」参照。)

(平成20年3月30日、同年4月13日修正、同年10月4日再修正)

大正9(1920)年(現在確認し得る年)

1-2 警察法大綱 上記1『日本警察法正義(要義?)』を、「警察法大綱」に改題の上、遅くとも、前有松(英義)警保局長序 関西大学講師 法学士草刈融・前警務長植松金章共著『註釈 警務全書(詳論篇)』(東京 松華堂蔵版、明治44年5月9日刊、大正9年8月30日増訂24版刊)に収録。(これは、その後、例えば、草刈融著『註釈 警務全書(詳論篇)』(松華堂、大正11年11月20日増訂32版刊、大正12年11月25日増訂44版刊)中の「警察法(総論 各論)」に転用、収録。かつ、『日本警察法正義(要義?)』の総論部分は、草刈融著『註釈 警務全書(要論篇)』(松華堂刊)に、「警察法(総論)」「警察法大綱(総論)」として収録か。)

(本著は、後掲5『改訂 警察法大綱』(松華堂、昭和2年8月7日改訂再版(改訂四版奥付では何故か「7月14日改訂再版発行」とある。)刊)の前身。詳しくは、後掲「V 高橋雄豺博士(1889~1979)の処女著書『日本警察法正義(要義?)』ないし『警察法大綱』覚書」参照。)

(平成20年3月30日追加、同年4月10日修正、同年10月4日再修正)

(松華堂につき本 HP 別稿「松華堂乃至松華堂書店とは何ぞや 一明治警察史の一齣一」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shokado.pdf> 参照。(平成27年1月11日追加)

大正13(1924)年

2 アーサー・ウッツ氏著・紐育市警察制度改革(抄訳) 東京・清水書店(大正13年4月19日刊)
『警察報告1914-1917』(ニューヨーク、1917年12月刊)を大正11年8月ニューヨーク市役所市政参考図書館で筆写し、訳したもの。アーサー・ウッツはニューヨーク市警視総監。執筆時の肩書き: 内務書記官、警察講習所教授。)

(清水書店につき下記本 HP 別稿「清水書店とは何ぞや—須原鉄二との関連で— 明治・大正警察史の一齣一」参照。

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shimizushoten.pdf>) (平成27年1月11日追加)

大正14(1925)年

3 警察官の教養 清水書店(大正14年1月5日刊)(肩書き: 内務書記官、警察講習所教授。)

大正15/昭和元(1926)年

4 交通警察概論 清水書店(大正15年6月25日刊)(警察講習所での講義をまとめたもの。)

(参考) [中訳本] 張仲英・劉大勳『交通警察概論』(市政叢書本、(上海?) 大東書局、民国20(昭和6/1931)年刊)(現物未見、『中訳日文書目録』(国際文化振興会、昭和20年2月20日刊)60頁に拠る。)(平成20年10月4日追加)

昭和2(1927)年

5 改訂 警察法大綱 松華堂(昭和2年7月の序文あり。昭和2年8月7日改訂再版刊(改訂四版奥付では何故か「7月14日改訂再版発行」とある。)、同年9月26日改訂三版刊、同年11月24日改訂四版刊)

(前身は、上記1『日本警察法正義(要義?)』(松華堂、大正7(1918)年11月26日刊)及び1-2「警察法大綱」(前有松(英義)警保局長序 関西大学講師 法学士草刈融・前警務長植松金章共著『註釈 警

務全書(詳論篇)』(東京 松華堂蔵版、明治44年5月9日刊、大正9年8月30日増訂24版刊)、草刈 融著『註釈 警務全書(詳論篇)』(松華堂、大正12年11月25日増訂44版刊)収録。詳しくは、後掲「V 高橋雄豺博士(1889~1979)の処女著書『日本警察法正義(要義?)』ないし『警察法大綱』覚書」参照)

(平成20年3月30日、同年4月13日修正、同年10月4日再修正)

【書評】法律春秋第5巻第10号(昭和5年10月1日刊、127、128頁)(平成20年3月13日刊)

6 警察論叢 大学書房(昭和2年11月20日刊)

(大正11(1922)年秋帰朝後昭和2(1927)年5月静岡県赴任までの間に警察関係雑誌等に発表したものを収録。)(第一編 警察の責務、第二編 火災及び活動、第三編 英米の警察)(内容:ピストル帯用問題、スパイ、英国警察制度に就て、英国の婦人巡査に就て等)

【書評】菊池慎三(東京府内務部長)「高橋雄豺君の『警察論叢』を読みながら」警察協会雑誌第329号(昭和3年1月)(後に、菊池慎三『警察行政研究』(松華堂、昭和4年6月16日刊)に「第二章 非常事件の際に於ける警察活動—高橋雄豺君の『警察論叢』を読みて」として再録。)

昭和5(1930)年

7 警察閑話 警眼社(昭和5年4月25日刊)

(昭和2年5月~同4年7月警察界を離れていた間(第二次の静岡県勤務時代)の「随感随想の漫録」、
「閑人の雑話」の由。)

(内容:戸締注意、警視総監の任期、内閣の更迭と警視総監、警察官の政事集会臨監、ロンドンの警察官と選挙、ロンドン警視総監の任命問題、英国に於ける警察官の懸賞論文の募集、騒擾事件被害の損害賠償、英国の警察制度に関する文献、英国の特別巡査、警視総監退職の理由、ロンドン警視庁百年祭、倫敦警視総監の任命問題に関する論戦、倫敦警視庁創設の回想、演説会等)

【書評・広告】「高橋警務部長の警察閑話遂に出づ」(警察協会雑誌第357号(昭和5年5月))

【書評】有松 昇「警察閑話を読みて」(警察協会雑誌第360号(昭和5年8月))

昭和6(1931)年

8 警邏勤務論 良書普及会(昭和6年8月23日刊。改訂版:良書普及会、昭和24年4月20日刊)

(本書には英訳本ありとの由(未見。中原英典『警察研究』第46巻第9号(昭和50年9月)45頁に拠る。))

昭和8(1933)年

9 警察の実務と教養 松華堂書店(昭和8年2月6日刊)

(昭和4年7月~同6年6月警視庁警務部長時代に講演、執筆したものを収録。「警察叢書 第4」か?)

(参考)警察協会雑誌第382号(昭和7年6月)等表紙裏掲載「述・警察講習講義録」(警察講習講義録発行所)の予告広告中に高橋雄豺『警察教養』の記載があり、警察協会雑誌第411号(昭和9年10月)では、第8巻(警察教養、犯罪捜査法・下、捕縄法)の予告もあるが、おそらく刊行されなかった模様。例えば同第443号(昭和12年4月)には掲載なし。

(参考)中訳本の件(平成23年1月21日追加)

劉惠璇「日治時期之「臺灣總督府警察官及司獄官練習所」(1898—1937) ---臺灣警察專科學校校史探

源（上篇）」

〈 http://www.tpa.edu.tw/mana_php/Download/File/magazine/TPC-bulletin/Date-pdf/4-8_05-%E5%8A%89%E6%83%A0%E7%92%87.pdf〉

88 頁所載註 175 として、「175 高橋雄豺著，王天嗣譯，（日）《警察的實務和教養》（東京：松華堂書店發行，1932 年 12 月 18 日印刷，1937 年 3 版發行；臺灣警察專科學校印行，2000 年 10 月），頁 51。」とあるが、平成 23 年 1 月 17 日のさる識者の御示教では、本中訳本は、「未公開刊行」との由である。なお、劉惠璇氏は、國立臺灣師範大學歷史學碩士（1985 年）、博士（1997 年）、現任臺灣警察專科學校刑事警察科專任副教授、また、王天嗣氏は私立中國文化大學日本研究所碩士とお聞きする。ちなみに、上記劉惠璇氏論説 65 頁には、註 11 として、「11 松井茂著，王天嗣譯，（日）《警察的根本問題》（東京：警察講習所學友會發行，1924 年 10 月 2 日印刷；臺北：臺灣警察專科學校，2001 年 4 月發行）」を掲載している。ただし、これも、上記識者によれば、「未公開刊行」とのことである。（台湾警察專科學校：<http://www.tpa.edu.tw/>）

昭和 10（1935）年

10 英国警察制度論 松華堂書店（昭和 10 年 10 月 8 日刊、「19 新訂 英国警察制度論（令文社、昭和 31 年 3 月 30 日刊）」の旧版）

【新刊紹介】（警察協会雑誌第 428 号〈昭和 11 年 1 月 10 日〉100 頁）

【参考】「なにを読むべきか—警察法について」（ジュリスト 5〈昭和 27 年 3 月 1 日〉35 頁）（平成 20 年 4 月 14 日追加）

昭和 21（1946）年

11 警察教養論 中央警察学校（現 警察大学校）学友会（昭和 21 年 12 月 20 日刊）（例えば、HP「日本の古本屋」（往来舎扱）では、「警察教養論、警察教養叢書 1、高橋雄豺・述、中央警察学校学友会、昭和 22、冊子 44 頁」とある。（平成 20 年 3 月 30 日現在）〈<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>〉）（平成 20 年 3 月 30 日追加）

昭和 22（1947）年

12 警察制度概論（財警察協会（昭和 22 年 1 月 25 日刊）

【参考】「なにを読むべきか—警察法について」（ジュリスト 5〈昭和 27 年 3 月 1 日〉34 頁）（平成 20 年 4 月 14 日追加）

13 警察の民主化 新警察社（昭和 22 年 8 月 20 日刊）（講演集）

（刑事係教養課程要目等）

【参考 1】田村正博「高橋雄豺氏の『過去の警察への反省』を読む」 警察学論集第 58 巻第 8 号（平成 17 年 8 月）（同書所収「過去の警察への反省」を対象としたもの）

【参考 2】田村正博「（警察政策研究会）『社会安全警察論』の今日的意義」 警察学論集第 59 巻第 5 号（平成 18 年 5 月）（上記【参考 1】関連箇所 67 頁）

昭和 23（1948）年

14 新警察論 新警察社（昭和 23 年 6 月 10 日刊）（発行者：伊藤榮二）

昭和24(1949)年

15 警邏勤務論(改訂版) 良書普及会(昭和24年4月20日刊。初版:良書普及会、昭和6年8月23日刊)

16 新しい刑事警察 新警察社(昭和24年7月1日刊)

(収録論文中「(Ⅲ) 論説その他」に未詳のものに、「犯罪捜査の技術」、「イギリスの一般巡査に対する刑事教養」、「イギリスの刑事講習教授要目」あり。)

昭和30(1955)年

17 英国総選挙視察報告書(共著(坂千秋、矢部貞治、兼子秀夫三氏と)) 自治庁(昭和30年7月刊)

18 口述 1955年 英国総選挙を視る 民主同志会(昭和30年7月5日刊)

昭和31(1956)年

19 新訂 英国警察制度論 令文社(昭和31年3月30日刊)

(「10 『英国警察制度論』(松華堂書店(昭和10年10月8日刊))の改訂版、中央大学学位論文(法学博士))

【書評】土屋正三(1893~1989) 警察研究第27巻第7号(昭和31年7月)

昭和35(1960)年

20 明治警察史研究 第1巻—明治年代の警察幹部教養—(明治十八年の警官練習所・明治三十二年の警察監獄学校・警察協会の警察官練習所—明治年代最後の幹部教養機関—) 令文社(昭和35年3月1日刊)(警察研究、警察学論集に掲載したもの(※1)を収録。)

【書評】大日向純夫(1950~)「高橋雄才(1889~1979)『明治警察史研究』全4巻・5冊、令文社、1960—72』『日本史文献事典』(弘文堂、平成15年12月15日刊)』689頁(平成20年4月14日追加)

昭和36(1961)年

21 明治警察史研究 第2巻—明治三十八年の日比谷騒擾事件— 令文社(昭和36年5月10日刊)

(収録論文)・「明治三十八年の日比谷騒擾事件」(1)~(27・完) (1):自警第35巻第3号(昭和28年3月)~(27・完):第37巻第5号(昭和30年5月)

【書評】土屋正三「高橋博士の『明治警察史研究第二巻』」 警察研究第32巻第9号(昭和36年9月)

【書評】大日向純夫「高橋雄才(1889~1979)『明治警察史研究』全4巻・5冊、令文社、1960—72』『日本史文献事典』(弘文堂、平成15年12月15日刊)』689頁(平成20年4月14日追加)

昭和38(1963)年

22 明治警察史研究 第3巻—露国皇太子の遭難事件・明治二十五年の選挙干渉・李鴻章狙撃事件— 令文社(昭和38年7月20日刊)

(収録論文1)「露国皇太子の遭難事件」:「明治時代の警察部長—その誕生と変遷—(7)~(12)露

国皇太子の遭難事件」 (7) : 自警第 39 巻第 11 号 (昭和 32 年 11 月) ~ (12) : 第 40 巻第 4 号 (昭和 33 年 4 月)

(収録論文 2) 「明治二十五年の選挙干渉」 : 「明治時代の警察部長—その誕生と変遷— (13) ~ (22) 明治二十五年の選挙干渉」 (13) : 自警第 40 巻第 5 号 (昭和 33 年 5 月) ~ (22) : 第 41 巻第 2 号 (昭和 34 年 2 月)

(収録論文 3) 「李鴻章狙撃事件」 : 「明治時代の警察部長—その誕生と変遷— (23) ~ (29) 李鴻章狙撃事件」 (23) : 自警第 41 巻第 3 号 (昭和 34 年 3 月) ~ (29) : 第 41 巻第 9 号 (昭和 34 年 9 月)

【書評】大日向純夫「高橋雄豺(1889~1979)『明治警察史研究』全4巻・5冊、令文社、1960—72」『日本史文献事典』(弘文堂、平成15年12月15日刊)』689頁(平成20年4月14日追加)

昭和 39 (1964) 年

23 高橋雄豺氏談話速記録 第1回(会期:昭和39年1月31日)、第2回(会期:昭和39年2月24日) 内政史研究会(内政史研究資料:第12、17集(印刷表記に「第13集」とあるのは「第17集」の間違いの由。)、タイプ謄写印刷)

昭和 45 (1970) 年

24 国民の風格を高めよ 時事通信社(時事新書、昭和45年11月1日刊)(この4年間に、雑誌フォト(時事画報社)の「論壇」に書いた時事問題、フォトの「いしぶみ」と同人雑誌に書いた先輩と友人の追悼記等を集成したもの。)

昭和 47 (1972) 年

25 明治警察史研究 第4巻(前編)—明治年代の警保局長 令文社(昭和47年7月10日刊。自警及び警察学論集に掲載したものを収録)

【書評】大日向純夫「高橋雄豺(1889~1979)『明治警察史研究』全4巻・5冊、令文社、1960—72」『日本史文献事典』(弘文堂、平成15年12月15日刊)』689頁(平成20年4月14日追加)

26 明治警察史研究 第4巻(後編)—明治年代の警保局長— 令文社(昭和47年7月10日刊。同。)

【書評】大日向純夫「高橋雄豺(1889~1979)『明治警察史研究』全4巻・5冊、令文社、1960—72」『日本史文献事典』(弘文堂、平成15年12月15日刊)』689頁(平成20年4月14日追加)

昭和 48 (1973) 年

27 小選挙区制遍歴二十年 パンフレット『世界と日本』シリーズNo.32 内外ニュース(昭和48年9月10日刊)

昭和 49 (1974) 年

28 幕末の儒者 林鶴梁 『じゅん刊・世界と日本』No.69 内外ニュース(昭和49年9月15日刊)

昭和 51 (1976) 年

29 明治年代の警察部長—明治警察史研究 良書普及会(昭和51年7月1日刊)

(収録論文1) 第一部 明治年代の警察部長—その誕生と変遷: 「明治時代の警察部長—その誕生と変遷— (1) ~ (6) (序論、概説部分)」 (1): 自警第39巻第1号 (昭和32年1月) ~ (6): 第39巻第6号 (昭和32年6月)、「明治年代の警察部長—その誕生と変遷— (30) ~ (34) その頃の警部長」 (30): 自警第41巻第10号 (昭和34年10月) ~ (34): 第42巻第2号 (昭和35年2月)

(収録論文2) 第二部 明治十七年の賭博犯処分規則: 警察研究第43巻第3号~第43巻第7号 (昭和47年)

(収録論文3) 第三部 川路大警視の「泰西見聞誌」: 警察研究第40巻第5号~第41巻第1号 (昭和44年)。『内務省史』第2巻 (大霞会、昭和45年11月1日刊) 577頁参照。

【推せんの言葉】警察庁警務局長國島文彦、「先人未踏の業績」: 慶應義塾大学教授、法学博士手塚豊 警察研究第47巻第9号 (昭和51年9月) 以降各誌の裏表紙裏に掲載。

(参考) 中訳本の件

平成12 (2000) 年 (平成23年1月21日追加)

『警察の実務と教養』(松華堂書店、昭和8年2月6日刊) (昭和4年7月~同6年6月警視庁警務部長時代に講演、執筆したものを収録。「警察叢書 第4」か?) に関して、台湾で下記の中訳本が出ている。劉惠璇「日治時期之「臺灣總督府警察官及司獄官練習所」(1898—1937) ----臺灣警察專科學校校史探源 (上篇)」

〈http://www.tpa.edu.tw/mana_php/Download/File/magazine/TPC-bulletin/Date-pdf/4-8_05-%E5%8A%89%E6%83%A0%E7%92%87.pdf〉

88頁所載註175として、「175 高橋雄豺著、王天嗣譯、(日)《警察的實務和教養》(東京:松華堂書店發行、1932年12月18日印刷、1937年3版發行;臺灣警察專科學校印行、2000年10月)、頁51。」とあるが、平成23年1月17日のさる識者の御示教では、本中訳本は、「未公開刊行」との由である。なお、劉惠璇氏は、國立臺灣師範大學歷史學碩士(1985年)、博士(1997年)、現任臺灣警察專科學校刑事警察科專任副教授、また、王天嗣氏は私立中國文化大學日本研究所碩士とお聞きする。ちなみに、上記劉惠璇氏論説65頁には、註11として、「11 松井茂著、王天嗣譯、(日)《警察的根本問題》(東京:警察講習所學友會發行、1924年10月2日印刷;臺北:臺灣警察專科學校、2001年4月發行)」を掲載している。ただし、これも、上記識者によれば、「未公開刊行」とのことである。

(追記1) 劉惠璇博士の上記御論稿はその後『台湾警察專科學校創校——三週年紀念特刊 飛躍世紀 傳承興隆 日治時期台灣總督府警察官及司獄官練習所』(同校、2011(民國100)年10月刊)に収録された。(平成26年5月18日追加)

(追記2) 台湾警察專科學校: 〈<http://www.tpa.edu.tw/>〉 (平成27年1月11日追加)

(II) 編書その他

大正7 (1918) 年

1 静岡県警察部『刑事警察研究資料』(大正7年創刊)

2 静岡県警察部『米価問題騒擾事件概要』(大正7年8月刊)

大正 14 (1925) 年

3 内務省警保局編『警察研究資料』第 1 輯 (原本では「第 1 輯」の表示なし。「ヘーン氏復命書並意見書」等所収。大正 14 年 3 月 31 日刊)

大正 15 (1926) 年

4 内務省警保局編『英国警察制度調査委員会報告書』(『警察研究資料』第 2 輯 (原本ではこの表示なし。)、大正 15 年 2 月 28 日刊)

5 内務省警保局編『行政警察例規集』(大正 15 年 3 月刊。改訂版: 昭和 6 (1931) 年に(財)警察協会より刊行。)

6 内務省警保局編『英国消防制度調査委員会報告書』(『警察研究資料』第 3 輯、大正 15 年 10 月 15 日刊、但し表紙には「6 月」の記載あり。)

昭和 2 (1927) 年

7 内務省警保局編『警察部長事務打合せに於ける内務大臣訓示要旨集』(『警察研究資料』第 4 輯、昭和 2 年 1 月 23 日刊 (表紙日付: 大正 15 年 11 月))

8 内務省警保局編『警察官吏 消防官吏・功労記章受領者功績概要』(『警察研究資料』第 5 輯、昭和 2 年 2 月刊 (「日」はなし。))

9 内務省警保局編『徳川時代警察沿革誌』上、下巻 (『警察研究資料』第 6、7 輯、3 月 30 日刊) (財)警察協会からも刊行 (昭和 2 年 3 月 30 日刊)、清浦奎吾関与の刊行経緯について「凡例」参照。)

10 内務省警保局編『庁府県警察沿革史』其ノ 1、2

(其ノ 1: 「警視庁史稿」上巻、其ノ 2: 「警視庁史稿」下巻、『警察研究資料』第 8、9 輯、昭和 2 年 3 月 28 日刊)、同『庁府県警察沿革史』其ノ 2 附録 (「警視庁史稿目次」、『警察研究資料』第 9 輯附録、昭和 2 年 11 月 30 日刊)

11 内務省警保局編『庁府県警察沿革史』其ノ 3、4 (『警察研究資料』第 10、11 輯、昭和 2 年 3 月 28 日刊)

12 内務省警保局編『英国警察裁判所論』(昭和 2 年 3 月 31 日刊)

昭和 4 (1929) 年 (静岡県内務部長在任 (昭和 2 年 5 月 17 日～同 4 年 7 月 8 日))

13 『静岡県政史話』(静岡県、昭和 4 年 5 月 20 日刊。復刻版: 『静岡県政史話』(静岡県図書館協議会、昭和 51 年 10 月 15 日刊)、同復刻版カバーに「県政史話焼却事件とは?」が印刷されている。)

(平成 20 年 6 月 8 日訂正。第七次補正稿 (平成 20 年 5 月 31 日作成) までは、「(調査中) 『静岡県誌』(昭和 2～4 年?) (静岡県内務部長時代、執筆者: 吉江勝保、青柳秀夫、小畑治和)」としていたものである。)

(後掲「VI 高橋雄豺博士関係編著『静岡県政史話』について—「高橋雄豺博士著作目録」補遺—」参照。)(平成 20 年 7 月 27 日修正、追加)

昭和 27 (1952) 年

14 松井茂先生自伝刊行会『松井茂自伝』(丸山鶴吉「序」、昭和 27 年 9 月 9 日刊。高橋雄豺「松井先生の『自伝』を校訂して」(同年 9 月 28 日作成の別刷小冊子)あり。)

昭和 45 (1970) 年

15 大霞会『内務省史』第 2 卷 (財地方財務協会、昭和 45 年 11 月 1 日刊、原書房覆刻版: 昭和 55 年 7 月 30 日刊) 第 4 章「警察行政」の担当委員 (土屋正三、萱場軍蔵、豊島章太郎各氏と) (『内務省史』第 4 卷 (昭和 46 年 11 月 1 日刊、原書房覆刻版: 昭和 55 年 9 月 30 日刊) 301 頁に記載。内務省史編輯委員会関係者の件については同書 290~292 頁参照。なお、『内務省外史』(大霞会、昭和 52 年 11 月 11 日刊) 191~193 頁参照。(『内務省外史』部分は、平成 20 年 5 月 31 日追加)

昭和 47 (1972) 年

16 警察協会 (複製版の編者)『徳川時代警察沿革誌』上、下巻 国書刊行会 (上記 9 (昭和 2 年刊) の復刻、昭和 47 年 6 月 20 日刊)

昭和 48 (1973) 年~49 (1974) 年

17 内務省警保局編『庁府県警察沿革史』1~4 原書房 (明治百年史叢書、上記 10 (昭和 2 年刊) の復刻。1: 昭和 48 年 12 月 20 日刊、2: 同年 10 月 25 日刊、3: 同年 11 月 15 日刊、4: 昭和 49 年 1 月 25 日刊)

(Ⅲ) 論説その他

(凡 例)

1 雑誌発表分には、未だ調査が行き届いていない。時事関係はもとよりであるが、例えば、警察関係でも、『自警』(警視庁 自警会) その他警察関係諸雑誌に、なおかなり多くの寄稿があるものと思われる。孫引きによる未確認等疑問のものには (??) を付した。この他、『読売新聞』CD-ROM (下記 CD-ROM 以前のもの) の記載は膨大すぎて、そもそも調査不可能であり、また、内外ニュース刊行の『週刊 世界と日本』の「時務一家言」についても、現状では調査できていない。なお、国立国会図書館所蔵の「読売新聞 CD-ROM (昭和 21/1946/1/1~昭和 35/1960/12/31)」については未見であるが、近々調査の予定でいる。

2 雑誌表示につき、例えば、警察協会雑誌 283[1924.3]は同誌第 283 号[1924 年 3 月刊]、警察学論集 9 (12) [1956.12]は同誌第 9 卷第 12 号[1956 年 12 月刊]、自警 12 (130) [1930.06.10]は同誌第 12 卷第 130 号[1930 年 6 月 10 日刊]等を指す。

3 上記著書の一部は、雑誌発表論稿を収録したものであるが、中原英典氏「高橋雄豺先生を偲ぶ〔遺稿〕」季刊現代警察第 20 号 (昭和 54 年秋号) [1979.11.20]によれば、高橋博士は再録に当たってはかなりの改訂を施されるのが常であったとのことであり、このためか、初出の明示がないものが多い。故に、初出誌と収録書の関係については調査不十分で、その一端を誌し得たにとどまるが、戦前期のものについては、おおよそ以下のとおりである。

① 大正 11 (1922) 年秋欧米留学より帰朝後昭和 2 (1927) 年 5 月静岡県赴任までの間に警察関係雑誌等に発表せしものは、『6 警察論叢』(大学書房、昭和 2 年 11 月 20 日刊) に収録。

② 昭和2 (1927) 年5月～同4 (1929) 年7月警察界を離れていた間 (第二次の静岡県勤務時代) の「随感随想の漫録」、「閑人の雑話」の類は、『7 警察閑話』(警眼社、昭和5年4月25日刊) に収録。

③ 昭和4 (1929) 年7月～同6 (1931) 年6月警視庁警務部長時代に講演、執筆せしものは、『9 警察の実務と教養』(松華堂書店、昭和8年2月6日刊) に収録。

4 下記著作に収録のものゝ表示法は、次のとおりである。なお、『国民の風格を高めよ』(時事通信社(時事新書)、昭和45年11月1日刊) 所収論稿については、別途誌した。

※1: 『明治警察史研究』第1巻—明治年代の警察幹部教養 (明治十八年の警官練習所・明治三十二年の警察監獄学校・警察協会の警察官練習所—明治年代最後の幹部教養機関—) (令文社、昭和35年3月1日刊)

※2: 『明治警察史研究』第2巻—明治三十八年の日比谷騒擾事件— (令文社、昭和36年5月10日刊)

※3: 『明治警察史研究』第3巻—露国皇太子の遭難事件・明治二十五年の選挙干渉・李鴻章狙撃事件— (令文社、昭和38年7月20日刊)

※4: 『明治警察史研究』第4巻(前編)—明治年代の警保局長— (令文社、昭和47年7月10日刊。)

※5: 『明治警察史研究』第4巻(後編)—明治年代の警保局長— (令文社、昭和47年7月10日刊。)

※6: 『明治年代の警察部長 明治警察史研究』(良書普及会、昭和51年7月1日刊)

大正4 (1915) 年～大正11 (1922) 年

・(不明)

大正12 (1923) 年

・英国の警察制度に就て (講演筆記) 警察協会雑誌 271 [1923.01]

・米警察制度に関する文献 (1) : 警察協会雑誌 274 [1923.04]、(2) : 275

[1923.05]、(3) : 276 [1923.06]、(4・完) : 277 [1923.07] (⇒ 著書『6 警察論叢』(昭和2年11月20日刊) に収録。)

大正12 (1923) 年～大正13 (1924) 年

・外国に於ける警察官の教養 (大正12年1、2月警察講習所に於ける講演筆記)

(1) : 警察協会雑誌 274 [1923.04]、(2) : 275 [1923.05]、(3) : 276 [1923.06]、(4) : 277 [1923.07]、(5) : 278 [1923.08]、(6) : 279 [1923.11] (関東大震災のため9・10両月合刊)、(7) : 280 [1923.12] (11・12両月合刊)、(8) : 281 [1924.01]、(9・完) : 282 [1924.02]

大正13 (1924) 年

・アーサー・ウッツ氏の「犯罪の予防」に就て 自警 6 (54) [1924.02] (『2 アーサー・ウッツ氏著・紐育市警察制度改革 (抄訳)』に収録。)

・自動車の取締に就て (講演) 道路の改良 6 (2) [1924.02]

・ピストル帯用問題 警察協会雑誌 284 [1924.04]

・交通警察の研究者に—交通警察号発刊に際して— 警察協会雑誌 285 [1924.05]

・非常事変の際に於ける警察活動の一規範 (1) : 警察協会雑誌 289 (震災記念号)

[1924.09]、(2) : 290 [1924.10]、(3・完) : 291 [1924.11] (⇒ 著書『6 警察論叢
に収録。)

大正 13 (1924) 年～大正 14 (1925) 年

・英国警察制度に関する文献 (前掲「米国警察制度に関する文献」(第 274～第 277 号) の続編) (1) :
警察協会雑誌 283[1924.03]、(2) : 286[1924.06]、(3) : 295[1925.03]、(4) : 297[1925.05]

大正 14 (1925) 年

- ・(訳) ロンドン警視庁 1923 年度警察計算書 自警自警 7 (67) (3 月号) [1925.03]
- ・我国に於ける火災及び消防 (1) : 地方行政 33 (3) [1925.03]、(2) : 33 (4) [1925.04]、(3) : 33
(6) [1925.06]、(4・完) : 33 (7) [1925.07]

大正 14 (1925) 年～大正 15 (1926) 年

- ・外国警察界時事 (1) : 警察協会雑誌 302 [1925.10]、(2) : 304 [1925.12]、(3) : 307 [1926.03]

大正 15 (1926) 年

- ・自動車を何処に置く 法律春秋 1 (3) [1926.11] (平成 20 年 3 月 13 日追加)

昭和 2 (1927) 年

- ・我国に於ける警察署制度の成立と変遷 地方 35 (4) [1927.04]

(註: 地方行政: 第 1 巻第 1 号 (明治 28 年?) ~ 第 33 巻第 9 号 (大正 14 年 9 月)、地方 (改題) : 第
34 巻第 10 号 (大正 14 年 10 月) ~ 第 35 巻第 5 号 (昭和 2 年 5 月)、地方行政 (再改題) : 第 35 巻第 6
号 (昭和 2 年 6 月) ~ 第 51 巻第 12 号 (昭和 19 年 2 月、同号で廃刊))

(参考: 「日本警察の歩みを語る (その 1) —明治警察史研究を中心にして 対談: 高橋雄豺・中原英典」
(警察研究 45 (9) [1974.09.10]) 113、114 頁では、「警察署制度の成立」は掲載誌不明、昭和 5 (1930)
年前後かとあるが、幸いにも今回判明した。後掲「IV 高橋雄豺博士の幻の明治警察史研究処女論文発見
記」参照。)

・上柳君の追憶 (故上柳内務事務官追悼録) 警察協会雑誌 321[1927.05] (上柳延太郎: 明治 28 (1895)
年 7 月 8 日～昭和 2 (1927) 年 4 月 9 日、大正 8 年内務省入省、同氏の著書に『危険思想に面して』(松
華堂書店、大正 13 年 12 月 10 日刊行) あり。) (平成 19 年 8 月 3 日補正)

- ・左側通行制の起原 (マ) 法律春秋 2 (5) [1927.05] (平成 20 年 10 月 9 日追加)

・「発刊にあたりて」(昭和二年五月 高橋雄豺 鈴川壽男) 上柳延太郎著『警察叢話』(鈴川壽男 (大正 9
年内務省入省) との共編、松井 茂の「序」あり、大学書房、昭和 2 年 5 月 20 日刊) (平成 19 年 8 月 3
日追加、平成 20 年 3 月 13 日修正)

・宇野君の洋行と私 (故宇野内務書記官追悼録) 警察協会雑誌 326[1927.10] (宇野慎三: 明治 23 (1890)
年 12 月～昭和 2 (1927) 年 5 月 13 日、大正 5 年内務省入省)

昭和 3 (1928) 年

- ・「明治四年に於ける静岡市消防組に関する規定」 大日本消防 2 (3) [1928.03.01]25～29 頁 (内容)

「明治四年の消防組に関する規則及びこれに対する請書並に其の規定制定後間もなく発せられたる訓令」の原文紹介（平成19年8月3日追加）

昭和3（1928）年～昭和5（1930）年

- ・雑記帳から（其の1）：警察協会雑誌332[1928.04]、（其の2）：333[1928.05]、（其の3）：336[1928.08]、（其の4）：337[1928.09]、（其の5）：338[1928.10]、（其の6）：340[1928.12]、（其の7）：342[1929.02]、（其の8）：344[1929.04]、（其の9）：345[1929.05]、（其の10）：348[1929.08]、（其の11）：353[1930.01]（⇒ 著書『7 警察閑話』に収録。）

昭和4（1929）年

- ・明治十六年の地方巡察復命書（註：関口隆吉元老院議員視察特別書類の紹介）（1）：地方行政37（6）[1929.06]、（2）：37（7）[1929.07]、（3）：37（8）[1929.08]、（4・完）：37（9）[1929.09]
- ・倫敦警視庁創設の回想—其の百年祭に当たりて— 警察協会雑誌346 [1929.06]（⇒ 著書『7 警察閑話』に収録。）
- ・倫敦警視庁創設の回想（承前） 警察協会雑誌347 [1929.07]（⇒ 著書『7 警察閑話』に収録。）
- ・（時評）警察幹部の充実 警察協会雑誌351 [1929.11]（⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。）

昭和5（1930）年

- ・巡査定員令 警察研究1（1）[1930.01]（⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。）
- ・（時評）警視警部定員令を制定すべし 警察協会雑誌353 [1930.01]（⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。）
- ・警察官に望むところ 其三警察巡察に際して 自警12（125）[1930.01.01]（全部未見）（平成22年4月28日追加）
- ・警察官服装座談会（土屋正三（1893～1989）等と。昭和4年10月21日於学士会館） 警察協会雑誌353 [1930.01]
- ・集り来る投書の数々 自警12（126）[1930.02.10]、12（127）[1930.03.10]、12（129）[1930.05.10]（全部未見）（平成22年4月28日追加）
- ・（時評）外勤第一 警察協会雑誌355 [1930.03]（⇒ 著書『8 警邏勤務論』に「序に代へて」として収録。）
- ・警衛勤務に就て 自警12（128）[1930.04.10]、12（129）[1930.05.10]（全部未見）（平成22年4月28日追加）
- ・模範警察 警察協会雑誌357 [1930.05]（⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。）
- ・近事二題（興業場の危険防止、警察部長会議） 警察協会雑誌358 [1930.6]（⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。）
- ・斯く思ふ 自警12（130）[1930.06.10]、12（131）[1930.07.10]、12（133）[1930.09.10]、12（135）[1930.11.10]、12（136）[1930.06.10]（130、131、133号は未見。）（平成22年4月28日追加）
- ・（参考）口絵に、警察談話会（昭和5年5月30日、於学士会館）での集合写真あり（田村豊警察講習所教授の姿もあり。） 警察協会雑誌359 [1930.07]
- ・（時評）警察幹部の教養 警察協会雑誌359 [1930.07]（⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。）

- ・(時評) 考試々験の問題 警察協会雑誌 361 [1930.09] (⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。)
- ・(時評) 休職審査委員会案 警察協会雑誌 362[1930.10] (⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。)
- ・(時評) 英国の警察監察官の引退 警察協会雑誌 363 [1930.11] (⇒ 著書『9 警察の実務と教養』に収録。)
- ・(調査中)：昭和5(1930)年『7 警察閑話』(警眼社、昭和5年4月25日刊)中でこの頃執筆が判明するもの ・ロンドン警視総監の任命に関する論戦、・司法警察官吏設置問題について、・警部考試委員より観たる警察法の試験(静岡県関係)、・日記帳

昭和5(1930)年～昭和6(1931)年

- ・警邏勤務論(1)～(7・完) (1)：警察研究1(7)[1930.07]、(2)：1(8)[1930.08]、(3)：1(9)[1930.09]、(4)：1(11)[1930.11]、(5)：1(12)[1930.12]、(6)：2(2)[1931.02]、(7・完)：2(3)[1931.03]

昭和5(1930)年～昭和7(1932)年

- ・英米の警察制度に関する文献 (1)：警察協会雑誌 354[1930.02]、(2)：373[1931.09]、(3)：374[1931.10]、(4)：381[1932.05]、(5)：383[1932.07]、(6)：384[1932.08] (前回(大正12、13年の項目参照)：大正12(1923)年頃の文献紹介、今回：その後のもの。(2)：373[1931.9]まで休載かも)

昭和6(1931)年

- ・刑事警察座談会 警察協会雑誌 367 [1931.03] (大塚惟精、土屋正三等各氏と)
- ・巡査懲罰例の改正と其の運用 警察研究2(4) [1931.04]
- ・監督者の教養と訓練—監督講習の開始と終了に際して— 自警13(141) [1931.05.10]13～19頁(平成22年4月28日追加)
- ・(時評) 交通巡査の危険防止 警察協会雑誌 371 [1931.07]
- ・監督者の教養と訓練—監督講習の開始と終了に際して— (141号の続稿) 自警13(147) [1931.11.10]75～81頁(この他、末尾に『東京朝日』記事(81頁「高橋香川県知事」)あり。)(平成22年4月28日追加)

昭和7(1932)年

- ・我国の警察の弱点(上) 警察思潮5(5) [1932.05] (肩書：前香川県知事、警察思潮：東京市神田区錦町1-14 松華堂内警察思潮社刊)
- ・我国の警察の弱点(下) 警察思潮5(6) [1932.06]
- ・都制と警察 都市問題(東京市政調査会)15(5) [1932.11]
- ・公民教育と警察 公民教育(社帝国公民教育協会)2(11) [1932.11] (註：編輯後記も参照)

昭和7(1932)年～昭和8(1933)年

- ・思い出・思いつき (1)：警察協会雑誌 385 [1932.09]、(2)：386 [1932.10]、(3)：389 [1933.01]

昭和7(1932)年～昭和9(1934)年

・英吉利の警察 (1) ～ (15・完) (1) : 警察研究 3 (6) [1932.06]、(2) : 3 (7) [1932.07]、(3) : 3 (8) [1932.08]、(4) : 3 (9) [1932.09]、(5) : 3 (10) [1932.10]、(6) : 3 (12) [1932.12]、(7) : 4 (2) [1933.02]、(8) : 4 (3) [1933.03]、(9) : 4 (4) [1933.04]、(10) : 4 (6) [1933.06]、(11) : 4 (7) [1933.07]、(12) : 4 (8) [1933.08]、(13) : 5 (1) [1934.01]、(14) : 5 (4) [1934.04]、(15) : 5 (7) [1934.07] ((15) に「この稿一応打切」とある。)

昭和 8 (1933) 年

・英才鳥越君 (故警視庁警視鳥越熟二君追悼録) 警察協会雑誌 393[1933.05] (鳥越熟二: 昭和 7 年警視庁警視・日本橋新場橋署長、1895～1933.4.21、39 歳、「鳥越署長死去」自警 15 (165) [1933.05.10]130 頁、「故鳥越熟二氏追悼会」自警 15 (166) [1933.06.10]134 頁) (平成 22 年 4 月 28 日一部修正、追加)

昭和 8 (1933) 年～昭和 10 (1935) 年

・東西南北 (1) ～ (14) (1) : 欧州大戦当時ロンドン市の受けた空中襲撃 警察協会雑誌 401[1933.12]、(2) : 402[1934.01]、(3) : 403[1934.02]、(4) : 404[1934.03]、(5) : 405[1934.04]、(6) : 406[1934.05]、(7) : 408[1934.07]、(8) : 409[1934.08]、(9) : 410[1934.09]、(10) : 412[1934.11]、(11) : 414[1935.01]、(12) : 飛行機とラジオの利用 417[1935.04]、(13) : 421[1935.07]、(14) : 422[1935.08] (419 号臨時増刊のため号数・発行月の調整あり。第 422 号で完か。)

昭和 9 (1934) 年

・警視総監に御注進—旧友会での某君の希望— 自警 16 (173) [1934.01.01]60～61 頁 (平成 22 年 4 月 28 日追加)
・司法警察官設置の要否及び其の理由 (回答) 自警 16 (177) [1934.05.10]9～11 頁中 10 頁 (丸山鶴吉他各氏とともに) (平成 22 年 4 月 28 日追加)

昭和 11 (1936) 年

・警邏勤務論 『警察講習所第二期短期本科講義録』(下巻) (警察講習所学友会、昭和 11 年 5 月 24 日刊) 175～243 頁 (末尾に『警邏勤務論』(良書普及会、昭和 6 年 8 月 23 日刊) 参照のことが記載されている。) (平成 26 年 5 月 14 日追加)

昭和 12 (1937) 年

- ・明治警察史の特長 (上) 警察研究 8 (8) [1937.08]
- ・明治警察史の特長 (中) 警察研究 8 (9) [1937.09]
- ・明治警察史の特長 (下) 警察研究 8 (11) [1937.11]

昭和 13 (1938) 年

- ・明治八年の地方官会議における警察問題 (上) 警察研究 9 (1) [1938.01]
- ・交通事故の調査に就て 自警 20 (1) [1938.01.01]46～53 頁 (平成 22 年 4 月 28 日追加)
- ・明治八年の地方官会議における警察問題 (中) 警察研究 9 (2) [1938.02]
- ・明治八年の地方官会議における警察問題 (下) 警察研究 9 (3) [1938.03]

- ・明治十八年の警官練習所 (1) 警察研究 9 (4) [1938.04] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (2) 警察研究 9 (6) [1938.06] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (3) 警察研究 9 (9) [1938.09] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (4) 警察研究 9 (10) [1938.10] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (5) 警察研究 9 (11) [1938.11] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (6) 警察研究 9 (12) [1938.12] ※1

昭和 14 (1939) 年

- ・明治十八年の警官練習所 (7) 警察研究 10 (2) [1939.02] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (8) 警察研究 10 (10) [1938.10] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (9) 警察研究 10 (11) [1938.11] ※1
- ・独伊巡遊所感 訪独伊日本新聞使節共著・児玉璋一編『独伊に就いて』(東京・日本新聞協会、昭和 14 年 12 月 5 日刊)

昭和 15 (1940) 年

- ・明治十八年の警官練習所 (10) 警察研究 11 (4) [1940.04] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (11) 警察研究 11 (6) [1940.06] ※1
- ・明治十八年の警官練習所 (12) 警察研究 11 (7) [1940.07] ※1
- ・ヘーン大尉のことども 国際知識及評論 (社)日本国際協会刊) 20 (8) [1940.08]35-37 頁 (註: 下記昭和 17 年発表論稿「ヘーン大尉のことども」とは別稿) (平成 19 年 12 月 18 日補正)

昭和 16 (1941) 年

- ・国土計画概論 都市問題 32 (1) [1941.01]
- ・鈴木さんの追憶 (前警察協会主事故鈴木千次君追悼録) 警察協会雑誌 491[1941.04]
(註: 鈴木千次 (慶応 3 (1867) 年 10 月 26 日～昭和 16 (1941) 年 2 月 5 日)。
他に、松井茂、長岡隆一郎、種村一男、佐藤進各氏による追悼文あり。)
- ・明治十八年の警官練習所 (13) 警察研究 12 (8) [1941.08] ※1
(註: 「明治十八年の警官練習所」は戦前には 13 回連載。昭和 25 (1950) 年のヘーン大尉関係論稿及び昭和 27 (1952) 年の続編参照。)
- ・戦争と報道機関 『臨戦体制論』(国策研究会編、東京・新経済社、昭和 16 年 12 月 15 日刊) (註: 昭和 16 年 8 月東京で開催の「国防経済講座」の講演筆記を論文形式としたもの)

昭和 17 (1942) 年

- ・大正末期の協会雑誌 警察協会雑誌 500 [1942.01]
- ・ヘーン大尉のことども 警察協会雑誌 511 [1942.12] (註: 上記昭和 15 年発表論稿とは別稿。ヘーン大尉に関する松井茂「清浦奎吾伯を弔し、併せてウイルヘルム・ヘーン氏を偲ぶ」(2-11 頁)、「普国警察大尉ヘーン君表功碑文」(12～16 頁)、静岡・雪下陽 (警官練習所第一期生中の最後の人物、元大審院検事、79 歳)「ウイルヘルム・ヘーン氏を偲ぶ」(20、21 頁)の記事もあり。) (平成 19 年 12 月 18 日補正)

昭和18(1943)年～昭和20(1945)年

- ・(不明)

昭和21(1946)年(戦後まもなくの時期については未調査、未判明のものが多い。)

- ・警察の進むべき道 警察協会雑誌522[1946.06] (註: 昭和21年4・5・6月合併号)

昭和22(1947)年

- ・過去の警察への反省—革新の準備として— (1) 警察研究18(3) [1947.03] (⇒ 著書『13 警察の民主化』に収録。)

- ・過去の警察への反省—革新の準備として— (2・完) 警察研究18(4・5) [1947.05] (⇒ 著書『13 警察の民主化』に収録。)

【参考1】 田村正博「高橋雄豺氏の『過去の警察への反省』を読む」 警察学論集第58巻第8号(平成17年8月)(註: 著書『13 警察の民主化』所収「過去の警察への反省」を対象としたもの)

【参考2】 田村正博「(警察政策研究会)『社会安全警察論』の今日的意義」 警察学論集第59巻第5号(平成18年5月)(上記【参考1】関連箇所67頁)

- ・外勤と紀律 自警3月号[1947.03] (⇒著書『14 新警察論』に収録。)(?)
- ・警察の電話 自警4月号[1947.04] (⇒著書『16 新しい刑事警察』に収録。)(平成19年8月3日追加)
- ・刑事警察の改革について 刑事警察創刊号(第1号) [内務省警保局鑑識第一課編、1947.08.31] (昭和22年8月31日刊) 4～14頁(平成19年8月3日追加。同年6月9日高塩博先生の御教示による。平成27年1月10日一部補正)
- ・イギリスの刑事調査委員会 刑事警察第3号 [内務省警保局鑑識第一課編、東光出版社、1947.12.10] (⇒著書『16 新しい刑事警察』に収録。)(平成19年8月3日追加、平成27年1月10日一部補正)

昭和23(1948)年

- ・《資料》米国警察制度と新警察制度 法律新報743(2月号、2月1日刊) (平成20年3月13日追加)
- ・ウィチタ市の新しい警邏制度 警察学論集3輯[1948.07]
- ・ピストルの弾丸 広島管区警察学校機関誌 松風2(4)(8月号)(参考: 広島管区警察学校機関誌『松風』所収論説情報に関しては、中原英典・警察研究第21巻第10号(昭和25年10月)45頁が端緒の一つとなる。)(⇒著書『16 新しい刑事警察』に収録。)(平成19年8月3日補正)
- ・アメリカの犯罪 広島管区警察学校機関誌 松風2(5)(10月号) (⇒著書『16 新しい刑事警察』に「アメリカの犯罪統計」として収録。)(平成19年8月3日補正)
- ・科学捜査私見 犯罪の研究[1948.12.01] (⇒著書『16 新しい刑事警察』に収録。)(平成19年8月3日追加)
- ・指紋を生かせ 大阪市警察学校機関誌 みおつくし[1948.12.01] (⇒著書『16 新しい刑事警察』に収録。)(平成19年8月3日追加)

昭和24(1949)年

- ・捜査主任論 みおつくし [1949.02.01] (⇒著書『16 新しい刑事警察』に収録。) (平成 19 年 8 月 3 日追加)
- ・鶏の鑑定 広島管区警察学校機関誌 松風 2 (?) (4 月号) (⇒著書『16 新しい刑事警察』に収録。) (平成 19 年 8 月 3 日追加)
- ・ペンシルヴェニア州警察学校の教授要目 広島管区警察学校機関誌 松風 2 (8) (7 月号)

昭和 25 (1950) 年

- ・ニューヨーク市の警察教養 警察学論集 10 輯 [1950.02] (??)
- ・ヘーン大尉に贈れる記念品 警察学論集 14 集 [1950.07] ※1

昭和 26 (1951) 年

- ・(不明)

昭和 27 (1952) 年

- ・首都警察論について 警察学論集 5 (6) [1952.06]
- ・続明治十八年の警官練習所 警察研究 23 (7) [1952.07] (昭和 16 年論説参照。) ※1
- ・警備警察論 新警察 7 (9) [1952.10]
- ・松井先生の「自伝」を校訂して (『松井茂自伝』(松井茂自伝刊行会、昭和 27 年 9 月 9 日刊) 刊行時に関係者に配布された小冊子) (昭和 27 年 9 月 28 日刊)

昭和 28 (1953) 年

- ・自治と警察制度 都市問題 44 (2~4 合併) [1953.04]
- ・明治三十二年の警察監獄学校 (1) 警察学論集 6 (8) [1953.09 (?)] ※1
- ・明治三十二年の警察監獄学校 (2) 警察学論集 6 (9) [1953.10 (?)] ※1
- ・警視総監時代を顧みて 『古希記念誌』(丸山先生古希祝賀記念会、9 月 27 日刊の小冊子、丸山鶴吉(1883~1956)) (自警 38 (6) [1956.06]14 頁参照。)
- ・明治三十二年の警察監獄学校 (3・完) 警察学論集 6 (10) [1953.11 (?)] ※1
- ・行政制度の改革に関する答申 自治時報 6 (12) [1953.12]

昭和 28 (1953) 年~昭和 30 (1955) 年

- ・明治三十八年の日比谷騒擾事件 (1) ~ (27・完) ※2
 - (1) : 自警 35 (3) [1953.03]、(2) : 35 (4) [1953.04]、(3) : 35 (5) [1953.05]、(4) : 35 (6) [1953.06]、(5) : 35 (7) [1953.07]、(6) : 35 (8) [1953.08]、(7) : 35 (9) [1953.09]、(8) : 35 (10) [1953.10]、(9) : 35 (11) [1953.11]、(10) : 35 (12) [1953.12]、(11) : 36 (1) [1954.01]、(12) : 36 (2) [1954.02]、(13) : 36 (03) [1954.03]、(14) : 36 (4) [1954.04]、(15) : 36 (5) [1954.05]、(16) : 36 (6) [1954.06]、(17) : 36 (7) [1954.07]、(18) : 36 (8) [1954.08]、(19) : 36 (9) [1954.09]、(20) : 36 (10) [1954.10]、(21) : 36 (11) [1954.11]、(22) : 36 (12) [1954.12]、(23) : 37 (1) [1955.01]、(24) : 37 (2) [1955.02]、(25) : 37 (3) [1955.03]、(26) : 37 (4) [1955.04]、(27・完) : 37 (5) [1955.05]

昭和 29 (1954) 年

- ・私の小選挙区制論 政界往来 20 (10) [1954]
- ・警察法改正の背景と方向 自警 36 (3) [1954.03] (??)
- ・新警察制度と地方自治 地方自治 (通号 80) [1954.07] (??)

昭和 30 (1955) 年

- ・警察教養特集 座談会 警察教養について 高橋雄豺他、司会 弘津恭輔 警察学論集 8 (3) [1955.03]
- ・あとがき独伊訪問新聞使節団 『五十人の新聞人』(電通、昭和 30 年 7 月 1 日刊) 261~268 頁 (昭和 14 年訪独伊の回顧録)。
- ・英国の選挙制度に学ぶ (口述筆記) 著書『17 英国総選挙視察報告書』(共著 (坂千秋、矢部貞治、兼子秀夫 三氏と)、自治庁、昭和 30 年 7 月刊) に収録。
- ・イギリスの総選挙を見聞して (講演録) 警察学論集 8 (8) [1955.08]

昭和 31 (1956) 年

- ・丸山鶴吉先生の追憶 (1) 自警 38 (6) [1956.06]
- ・丸山鶴吉先生の追憶 (2) 自警 38 (7) [1956.07]
- ・警察協会の警察官練習所—明治年代最後の幹部教養機関— 警察学論集 9 (11)

[1956.11]※1

- ・欧米警察に学ぶもの (座談会) 警察学論集 9 (12) [1956.12]

昭和 32 (1957) 年~昭和 37 (1962) 年

- ・明治年代の警察部長 (1) ~ (60・完) 自警 39 (1) [1957.1]~44 (5) [1962.5] (全 60 回) (39 (7) [1957.07]~39 (10) [1957.10]、42 (9) [1960.09]は休載) ※3、※6

①明治年代の警察部長—その誕生と変遷— (1) ~ (6) (序論、概説部分) ※6

(1) : 自警 39 (1) [1957.01]、(2) : 39 (2) [1957.02]、(3) : 39 (3) [1957.03]、(4) : 39 (4) [1957.04]、(5) : 39 (5) [1957.05]、(6) : 39 (6) [1957.06]

②明治年代の警察部長—その誕生と変遷— (7) ~ (12) 露国皇太子の遭難事件 ※3

(7) : 39 (11) [1957.11]、(8) : 39 (12) [1957.12]、(9) : 40 (1) [1958.01]、(10) : 40 (2) [1958.02]、(11) : 40 (3) [1958.3]、(12) : 40 (4) [1958.4]

③明治年代の警察部長—その誕生と変遷— (13) ~ (22) 明治二十五年の選挙干渉 ※3

(13) : 40 (5) [1958.05]、(14) : 40 (6) [1958.06]、(15) : 40 (7) [1958.07]、(16) : 40 (8) [1958.08]、(17) : 40 (9) [1958.09]、(18) : 40 (10) [1958.10]、(19) : 40 (11) [1958.11]、(20) : 40 (12) [1958.12]、(21) : 41 (1) [1959.01]、(22) : 41 (2) [1959.02]

④明治年代の警察部長—その誕生と変遷— (23) ~ (29) 李鴻章狙撃事件 ※3

(23) : 41 (3) [1959.03]、(24) : 41 (4) [1959.04]、(25) : 41 (5) [1959.05]、(26) : 41 (6) [1959.06]、(27) : 41 (7) [1959.07]、(28) : 41 (8) [1959.08]、(29) : 41 (9) [1959.09]

⑤明治年代の警察部長—その誕生と変遷— (30) ~ (34) その頃の警部長 ※6

(30) : 41 (10) [1959.10]、(31) : 41 (11) [1959.11]、(32) : 41 (12) [1959.12]、(33) : 42

(1) [1960.01]、(34) : 42 (2) [1960.02]

(30) ~ (34) その頃の警部長→ (30) 大浦兼武、(31) (未見、おそらく大浦兼武)、(32) 田健治郎、(33) 松井茂、(34) 安楽兼道、川上親晴、床次竹二郎、伊沢多喜男、添田敬一郎、山県治郎

⑥明治年代の警察部長—その誕生と変遷— (35) ~ (43) 幸徳秋水の大逆事件 (35) : 42 (3) [1960.03]、(36) : 42 (4) [1960.04]、(37) : 42 (5) [1960.05]、(38) : 42 (6) [1960.06]、(39) : 42 (7) [1960.07]、(40) : 42 (8) [1960.08]、([1960.09]は休載)、(41) : 42 (10) [1960.10]、(42) : 42 (11) [1960.11]、(43) : 42 (12) [1960.12]

⑦幸徳秋水の大逆事件—明治年代の警察部長— (44) ~ (60・完) (『明治警察史研究』には未収録) (44) : 43 (1) [1961.01]、(45) : 43 (2) [1961.02]、(46) : 43 (3) [1961.03]、(47) : 43 (4) [1961.04]、(48) : 43 (5) [1961.05]、(49) : 43 (6) [1961.06]、(50) : 43 (7) [1961.07]、(51) : 43 (8) [1961.08]、(52) : 43 (9) [1961.09]、(53) : 43 (10) [1961.10]、(54) : 43 (11) [1961.11]、(55) : 43 (12) [1961.12]、(56) : 44 (1) [1962.01]、(57) : 44 (2) [1962.02]、(58) : 44 (3) [1962.03]、(59) : 44 (4) [1962.04]、(60・完) : 44 (5) [1962.05]

昭和33 (1958) 年

・思い出二つ三つ 致遠 (警察大学校学友会) 21 [1958.05.30] (戦後設立の中央警察学校長に擬せられしとのことである。)

昭和34 (1959) 年

・石田馨君の追憶 大霞 5 [1959.04.01]6面 (石田馨 (1885~1959)、大霞 (大霞会刊)) (平成20年6月13日追加)

・静岡県庁時代の同僚 大霞 7 [1959.10.01]7面 (平成20年6月13日追加)

昭和35 (1960) 年

・私の書いた本 致遠 25 [1960.06.15] (処女作から当時に至る単行著作に言及されている。)

昭和36 (1961) 年

・まず小選挙区制の採用から 自由と正義 12 (2) [1961.02]

昭和38 (1963) 年

・警察官と新聞記者 (新春随林) 警察文化 16 (1) [1963.12.05] (警察文化協会、昭和38年12月5日刊、1964新年号) 17、18頁

昭和39 (1964) 年

・(随想) 運転手とみやげ物屋 フォト (時事画報社) 11 (13) [1964.07.01]

・自賛 朝日ジャーナル昭和39 (1964) 年10月18日号 (第6巻第42号) 88、89頁 (肖像に付す。)

・インタビュー 読売新聞社副社長高橋雄豺 外勤警らに主力を (「目次」では「高橋雄豺先生に聞く」。対談者は同誌編集部) 警察文化 16 (11) [1964.11.05] (警察文化協会、昭和39年11月5日刊) 18~21頁

・(座談会) 行政改革の方向と問題点—臨時行政調査会の答申—(司会 宮沢俊義、久世公亮、高橋雄豺
(読売新聞社副社長、臨時行政調査会委員)、林修三、西島芳二、福良俊之、雄川一郎) ジュリスト
310[1964. 11.15]10~36 頁(平成 20 年 4 月 14 日追加)

昭和 40 (1965) 年

・(座談会) 棄権せず、よりよい人に投票(自治大臣 吉武恵市、公明選挙連盟理事 高橋雄豺、中央選挙
管理委員長 大浜英子、司会 時事通信社政治部長 丸山和光)

フォト 12 (10) [1965.05.15]

・明治時代の警保局長 (1) 1 島本仲道 (1) 自警 47 (5) [1965.05] (含はしがき、概説) ※4

・明治時代の警保局長 (2) 1 島本仲道 (2) 自警 47 (7) [1965.07] ※4

・明治時代の警保局長 (3) 1 島本仲道 (3) 自警 47 (8) [1965.08] ※4

・明治時代の警保局長 (4) 1 島本仲道 (4) 自警 47 (9) [1965.09] ※4

・明治時代の警保局長 (5) 1 島本仲道 (5) 自警 47 (10) [1965.10] ※4

・明治時代の警保局長 (6) 2 河野敏鎌 自警 47 (12) [1965.12] ※4

・鼎談 行政機構改革推進の好機(読売新聞社顧問 高橋雄豺、民主社会党書記長 西村英一、時事画報
社理事長 長谷川才次) フォト 12 (23) [1965.12.01]

昭和 41 (1966) 年

(この頃から 5 年間余フォト(時事画報社)論壇に時事問題を執筆。⇒後掲「(参考) フォト掲載『論
壇』記事一覧」参照。⇒後、著書『24 国民の風格を高めよ』に収録。)

・香川県知事時代の思い出 大霞 32 [1966.01.01]9~11 頁(『静岡県政史話』の件にも言及されている。
平成 20 年 6 月 13 日追加)

・明治時代の警保局長 (7) 3 村田氏寿 自警 48 (1) [1966.01] ※4

・明治時代の警保局長 (8) 4 川路利良 自警 48 (3) [1966.03] ※4

・明治時代の警保局長 (9) 5 大山巖 自警 48 (6) [1966.06] ※4

・座談会 佐藤孝三郎翁にきく—明治時代の内務省など 大霞 34 [1966.07.01]24~30 頁(於杉並区高円
寺佐藤邸、佐藤孝三郎(1868~1969)、佐藤達夫(1904~1974)、土屋正三(1893~1989)、高橋雄豺
(後掲「佐藤孝三郎翁の思い出」大霞 49 [1970.04.01]14、15 頁参照。)(平成 20 年 7 月 27 日追加)

・松井(茂)先生を思う 致遠 37 [1966.07.30]

・明治時代の警保局長 (10) 6 石井邦猷 自警 48 (8) [1966.08] ※4

・明治時代の警保局長 (11) 7 樺山資紀 自警 48 (9) [1966.09] ※4

・(論壇)「この人を見よ」—田沢義鋪(よしはる)さんの姿—フォト 13 (24) [1966.12.01] (⇒著書『24
国民の風格を高めよ』に収録。)

(参考) フォト掲載「論壇」記事一覧(※24: 著書『24 国民の風格を高めよ』(時事通信社・時事新書、
昭和 45 (1970) 年 11 月 1 日刊)に収録。)

昭和 41 (1966) 年

- ・論壇 大臣と次官の寿命 13 (3) [1966.02.01] ※24
- ・論壇 人物の鑑識 13 (7) [1966.04.01] ※24
- ・論壇 裁判の遅延 13 (11) [1966.06.01] ※24
- ・論壇 役人の勤務を正せ 13 (15) [1966.08.01] ※24
- ・論壇 田中 (章治) 事件の教訓 13 (19) [1966.10.01] ※24
- ・論壇 「この人を見よ」—田沢義鋪 (よしはる) さんの姿—フォト 13 (24) [1966.12.01] ※24 (これのみ重複掲載)

昭和 42 (1967) 年

- ・論壇 黒い霧の抜本的解消へ 14 (03) [1967.02.01] ※24
- ・論壇 地方選挙を重視せよ 14 (07) [1967.04.01] ※24
- ・論壇 フランスの総選挙 14 (11) [1967.06.01] ※24
- ・論壇 政治と金 14 (15) [1967.08.01] ※24
- ・論壇 行政改革の最後の機会? 14 (19) [1967.10.01] ※24
- ・論壇 汚職と綱紀 14 (23) [1967.12.01] ※24

昭和 43 (1968) 年

- ・論壇 民主政治への不信を恐れる 15 (03) [1968.02.01] ※24
- ・論壇 参議院全国区制の再検討 15 (07) [1968.04.01] ※24
- ・論壇 道徳の高揚を政治の場で 15 (11) [1968.06.01] ※24
- ・論壇 参議院選挙を顧みて 15 (15) [1968.08.01] ※24
- ・論壇 憂うべき法と秩序の軽視 15 (19) [1968.10.01] ※24
- ・論壇 自治体にもっと関心を 15 (22) [1968.11.15] ※24

昭和 44 (1969) 年

- ・論壇 治安対策を政治の場で 16 (01) [1969.01.01] ※24
- ・論壇 治安問題をもっと真剣に 16 (05) [1969.03.01] ※24
- ・論壇 営利事業の社会的責任 16 (09) [1969.05.01] ※24
- ・論壇 国会議員の選挙八十年 16 (13) [1969.07.01] ※24
- ・論壇 科学技術開発の急務 16 (17) [1969.09.01] ※24
- ・論壇 国民の風格を高めよ 16 (22) [1969.11.01] ※24

昭和 45 (1970) 年

- ・論壇 総選挙の記憶の新たなうちに 17 (1) [1970.01.01] ※24
- ・論壇 万国博を実りあるものに 17 (5) [1970.03.01] ※24
- ・論壇 地震対策を忘れるな 17 (9) [1970.05.01] ※24
- ・論壇 経済だけでない大国に 17 (13) [1970.07.01] ※24
- ・論壇 無意味な過度の包装 17 (17) [1970.09.01]

(参考: 『24 国民の風格を高めよ』(時事通信社・時事新書、昭和 45 (1970) 年 11 月 1 日刊) 刊行)

- ・論壇 行政における創意とくふう 17 (21) [1970.11.01]

昭和46 (1971) 年

- ・論壇 社会の変化に応ずる道 18 (01) [1971.01.01]
- ・論壇 外国についての知識 18 (05) [1971.03.01]
- ・論壇 民主政治下の選挙 18 (09) [1971.05.01]
- ・論壇 選挙をよくするための反省 18 (13) [1971.07.01] (「論壇」掲載の最終か?)

昭和42 (1967) 年

- ・唐沢俊樹君逝く 大霞 38 [1972.07.01]43、44 頁 (長く、「唐沢俊樹君の面影 (初出誌不明??、⇒『24 国民の風格を高めよ』に収録、そこは「1967年5月26日」とある。唐沢俊樹 (1891~1967) 」としていたものであるが、今般初出誌が判明した。ただし、『24 国民の風格を高めよ』では、「唐沢俊樹君の面影」に改題されている。平成20年6月13日補正)

昭和43 (1968) 年

- ・英学の先駆者・大築拙蔵の碑 フォト 15 (04) [1968.02.15] (連載「いしぶみ」) 42 頁 (⇒著書『24 国民の風格を高めよ』に収録。) (大築拙蔵: 天保13 (1842) 年12月~明治19 (1886) 年7月15日)

昭和44 (1969) 年

- ・『小野田元瀨』序 川島維知 (館林市立図書館長) 監修・小野田元一著『小野田元瀨』(昭和44年1月執筆、小野田元瀨五十年祭記念出版、栃木・小野田元一 (小野田元瀨曾孫) 自己出版、昭和44年2月15日刊) (この他、70 頁に高橋博士の「発言」あり。小野田元瀨: 嘉永元 (1848) 年2月11日~大正8 (1919) 年6月12日、下記「泰西見聞誌」の筆記者、内務省警保局長、貴族院議員)
- ・明治時代の警保局長 (1) 西村捨三・田辺良顕・勝間田稔 警察学論集 22 (4) [1969.04] ※4
- ・川路大警視の「泰西見聞誌」(1) 警察研究 40 (5) [1969.05] ※6
- ・明治時代の警保局長 (2) 清浦奎吾 警察学論集 22 (5) [1969.05] ※4
- ・警察制度の産みの親・川路利良の碑 (川路利良墓表、生地 of 碑文あり。) (連載「いしぶみ」) 44~46 頁 フォト 16 (11) [1969.06] (⇒著書『24 国民の風格を高めよ』に収録。)
- ・川路大警視の「泰西見聞誌」(2) 警察研究 40 (6) [1969.06] ※6
- ・川路大警視の「泰西見聞誌」(3) 警察研究 40 (7) [1969.07] ※6
- ・明治時代の警保局長 (3) 小松原栄太郎・大森鍾一 警察学論集 22 (7) [1969.07] ※4
- ・川路大警視の「泰西見聞誌」(4) 警察研究 40 (8) [1969.08] ※6
- ・明治時代の警保局長 (4) 高崎親章 警察学論集 22 (8) [1969.08] ※4
- ・川路大警視の「泰西見聞誌」(5) 警察研究 40 (9) [1969.09] ※6
- ・明治時代の警保局長 (5) 小野田元瀨 (1) 警察学論集 22 (10) [1969.09] ※4
- ・老人の役割 大法輪 36 (9) [1969.09] (平成20年3月30日追加、4月12日修正)
- ・川路大警視の「泰西見聞誌」(6) 警察研究 40 (10) [1969.10] ※6
- ・明治時代の警保局長 (6) 小野田元瀨 (2) 警察学論集 22 (11) [1969.10] ※4

- ・明治時代の警保局長 (7) 牧朴真、小倉久 (1) 警察学論集 22 (12) [1969.11] ※5
- ・川路大警視の「泰西見聞誌」(7) 警察研究 40 (12) [1969.12] ※6
- ・明治時代の警保局長 (8) 小倉久 (2) 警察学論集 22 (13) [1969.12] ※5

昭和 45 (1970) 年

- ・川路大警視の「泰西見聞誌」(8) 警察研究 41 (1) [1970.01] ※6
- ・明治時代の警保局長 (9) 安楽兼道 (1) 警察学論集 23 (1) [1970.01] ※5
- ・明治時代の警保局長 (10) 安楽兼道 (2) 警察学論集 23 (2) [1970.02] ※5
- ・明治時代の警保局長 (11) 寺原長輝 (1) 警察学論集 23 (3) [1970.03] ※5
- ・佐藤孝三郎翁の思い出 大霞 49 [1970.04.01] (⇒著書『24 国民の風格を高めよ』に収録。佐藤孝三郎 (1868～1969)) (平成 20 年 7 月 27 日初出判明、修正)
- ・明治時代の警保局長 (12) 寺原長輝 (2) 警察学論集 23 (4) [1970.04] ※5
- ・明治時代の警保局長 (13) 田中貴道 警察学論集 23 (5) [1970.05] ※5
- ・荒木征逸『全訳警察手眼 付/川路利良伝』序 (警察時報社、昭和 45 年 5 月 1 日刊。当初警察時報昭和 45 年 5 月号附録)
- ・『復刻英国衰亡論 全』解説 (「高橋雄介解説」別刷入ありの由、昭和 45 年 5 月刊。「解説」のみ未見。) (明治百三十八年日本高等小学校教科書、タイトル 英国衰亡論 責任表示 英国・某憂国者著、責任表示 日本・椿園居士 (新橋堂、明治 39/1906 年 3 月 12 日刊。実際の著者は玉木懿夫 (よしを、1872～?))、出版地 [東京]、出版者 [長谷川才次] ⇒ 元時事通信社長) ⇒ 下記日本古書通信 35 (8) 参照。
(参考 1) 総合経営研究所編『英国衰亡論に学ぶ: 国は内より亡びる 明治百三十八年日本高等小学校教科書』(都市文化社、昭和 60 年 2 月 1 日刊) (平成 20 年 3 月 13 日追加)
(参考 2) 八木福次郎『古本蘊蓄』(平凡社、平成 19 年 10 月 1 日刊) 40 頁 (『英国衰亡論』) (平成 20 年 5 月 31 日追加)
- ・明治時代の警保局長 (14) 鈴木定直 警察学論集 23 (6) [1970.06] ※5
- ・明治時代の警保局長 (15) 安立綱之 警察学論集 23 (8) [1970.08] ※5
- ・古書展で掘り出した奇書「英国衰亡論」 日本古書通信 35 (8) (通巻 493、8 月 15 日刊) ⇒ 上記『復刻英国衰亡論 全』参照。 (平成 20 年 2 月 20 日追加)
- ・明治時代の警保局長 (16) 有松英義 (1) 警察学論集 23 (9) [1970.09] ※5
- ・明治時代の警保局長 (17) 有松英義 (2) 警察学論集 23 (10) [1970.10] ※5
- ・明治時代の警保局長 (18) 有松英義 (3) 警察学論集 23 (12) [1970.12] ※5

昭和 46 (1971) 年

- ・明治時代の警保局長 (19) 仲小路廉 警察学論集 24 (1) [1971.01] ※5
- ・明治時代の警保局長 (20・完) 古賀廉造 警察学論集 24 (2) [1971.02] ※5
- ・(座談会) 地方行幸と内務省 『内務省史』第 3 卷 (大霞会、昭和 46 年 6 月 1 日刊。原書房覆刻版、昭和 55 年 7 月 30 日刊) 第 2 篇 内務省の行政、第 2 部 第 4 章 地方行幸と内務省 (757～836 頁) (座談会実施、第 1 回昭和 42 年 2 月 3 日不参加、同 2 月 7 日参加)
- ・若かりし日の川島正次郎 川島正次郎先生追悼録編集委員会『川島正次郎』(交友クラブ、11 月 9 日刊、146～148 頁) (川島正次郎 (1890～1970)。他に関連記事 318、344 頁)

昭和47(1972)年

- ・明治17年の賭博犯処分規則(1) 警察研究43(3) [1972.03] ※6
- ・明治17年の賭博犯処分規則(2) 警察研究43(4) [1972.04] ※6
- ・明治17年の賭博犯処分規則(3) 警察研究43(5) [1972.05] ※6
- ・明治17年の賭博犯処分規則(4) 警察研究43(6) [1972.06] ※6
- ・明治17年の賭博犯処分規則(5・完) 警察研究43(7) [1972.07] ※6

昭和49(1974)年

- ・幕末の碩儒 林鶴梁 世界と日本(内外ニュース社)116「歴史残花」[1974.06.24]～118同[1974.07.08]
(林鶴梁(1806～1878)、墓:赤坂1丁目澄泉寺、著書28『幕末の儒者 林鶴梁』『じゅん刊・世界と日本』No.69(内外ニュース、昭和49年9月15日刊)、『歴史残花』(善本社、昭和51年12月5日刊)各参照。)
- ・日本警察の歩みを語る(その1)―明治警察史研究を中心にして 対談:高橋雄豺・中原英典 警察研究45(9) [1974.09.10]

昭和50(1975)年

- ・日本警察の歩みを語る(その4)―警保局勤務のころ 後藤文夫、(ききて)高橋雄豺・中原英典 警察研究46(5) [1975.05]
- ・警察勤務の思い出(1)―日本警察の歩みを語る(5) 高橋雄豺、(ききて・註記)中原英典 警察研究46(6) [1975.06]
- ・警察勤務の思い出(2)―日本警察の歩みを語る(6) 高橋雄豺、(ききて・註記)中原英典 警察研究46(7) [1975.07]
- ・警察勤務の思い出(3)―日本警察の歩みを語る(7) 高橋雄豺、(ききて・註記)中原英典 警察研究46(8) [1975.08]
- ・警察勤務の思い出(4・完)―日本警察の歩みを語る(8) 高橋雄豺、(ききて・註記)中原英典 警察研究46(9) [1975.09]

昭和51(1976)年

- ・幕末の儒者 林鶴梁―新政府の仕官断った硬骨の偉才― 長谷川才次監修『歴史残花』(善本社、昭和51年12月5日刊、117～187頁)(世界と日本(内外ニュース社、週刊)昭和49年掲載のもの、再録、著書28参照。長谷川才次(1903～1978))
(参考1)萩原進(1913～)『炎の生糸商売 中居屋重兵衛』(有隣堂、有隣新書、昭和53年2月15日刊)36～43頁(高橋博士の林鶴梁関係記載)(平成20年5月31日追加)
- ・良二千石 田辺良頭―明治初期における民主政治の実践者― 前掲『歴史残花』(善本社、昭和51年12月5日刊、213～231頁)(世界と日本(内外ニュース社)(掲載年月等詳細不明)掲載のもの、再録、田辺良頭(1834～1897))

昭和52(1977)年

- ・座談会 六十年前の静岡県庁 大霞 75 [1977.01]4~24 頁 (高橋雄豺、川西実三、岡田周造、飯沼一省、小河正儀、土屋正三、司会: 荻田 保。昭和 51 年 8 月 25 日開催、於地方財務協会特別会議室) (平成 20 年 7 月 15 日追加)
- ・座談会 高橋雄豺氏 思い出を語る (上) 大霞 76 [1977.06.01]2~17 頁 (高橋雄豺、土屋正三、萱場軍蔵、狭間 茂、水野清一、司会: 荻田 保) (平成 20 年 7 月 15 日追加)
- ・座談会 高橋雄豺氏 思い出を語る (下) 大霞 77 [1977.09.10]12~30 頁 (「静岡県政史話」事件: 16~18 頁) (高橋雄豺、土屋正三、萱場軍蔵、狭間茂、司会: 荻田保) (平成 20 年 7 月 15 日追加)
- ・知事は語る (高橋雄豺「県政史話」) 『内務省外史』(大霞会、昭和 52 年 11 月 11 日刊) 191~193 頁 (同書附記によれば、会報『大霞』掲載のものを編集部において適宜圧縮して作成したものとのこと。上記高橋雄豺「香川県知事時代の思い出」『大霞』第 32 号 (昭和 41 年 1 月 1 日刊) 9~11 頁、「座談会 六十年前の静岡県庁」『大霞』第 75 号 (昭和 52 年 1 月 1 日刊) 4~24 頁、「座談会 高橋雄豺氏 思い出を語る (下)」『大霞』第 77 号 (昭和 52 年 9 月 10 日刊) 12~30 頁 (「静岡県政史話」事件: 16~18 頁) 等の一部要約と思われる。) (当初、「・・ただし、初出誌不明。(平成 20 年 5 月 31 日追加)」としたのを今回再補正した。平成 20 年 6 月 13 日補正、平成 20 年 7 月 15 日再補正)

昭和 54 (1979) 年

- ・我が国警察の歩み—「警察研究」五〇周年を記念して 座談会 高橋雄豺、土屋正三、新井裕、山田英雄 警察研究 50 (1) [1979.01]
- ・支局から本社へ指令した人 『長谷川才次』(『長谷川才次』刊行会、昭和 54 年 3 月 10 日刊) (註:長谷川才次 (1903~1978) の刊行した高橋博士の著書 3 冊のことが書かれている。)

(昭和 54 (1979) 年 8 月 26 日 高橋雄豺博士逝去)

昭和 62 (1987) 年

- ・独学で高文受験記 『続内務省外史』(大霞会、昭和 62 年 11 月 1 日刊) 399~402 頁 (上記「座談会 高橋雄豺氏 思い出を語る (上)」『大霞』第 76 号 [1977.06.01]の一部陣記載) (参考: 荻田保 (1908~2003) 「高文一番の内務省入省者」同書 403、404 頁、『大霞』第 101 号 [1985.10.01]19 頁) (平成 20 年 7 月 22、27 日追加)
- ・唐沢俊樹の二・二六事件当時の苦心 『続内務省外史』(大霞会、昭和 62 年 11 月 1 日刊) 493~494 頁 (上記高橋雄豺「唐沢俊樹君逝く」『大霞』第 38 号 [1972. 07.01]43、44 頁の一部陣記載) (平成 20 年 7 月 22 日追加)

平成 9 (1997) 年

- ・この人見よ 高橋雄豺 季刊現代警察第 24 巻第 3 号 (通巻第 81 号、平成 9 年 11 月刊) (未見。「国立国会図書館のデジタル化資料」(<http://dl.ndl.go.jp/>) に拠る。) (平成 24 年 9 月 21 日追加)

(IV) 関係文献

- ・読売新聞社社史類は下記の 2 冊のみ掲載し、他は省略した。

・人名辞典類は取り敢えず以下のものを参照。

- ① 『昭和人名辞典』第1巻〔東京篇〕（日本図書センター、昭和62年10月5日刊、『大衆人事録 東京篇』（第14版）（帝国秘密探偵社、昭和17年10月5日刊）の復刊）603頁
- ② 『昭和人名辞典』Ⅱ 第1巻〔東京篇〕（日本図書センター、平成元年2月5日刊、『大衆人事録 東京篇』（第19版）（帝国秘密探偵社、昭和31年9月1日刊）の復刊）498頁
- ③ 『昭和人名辞典』Ⅲ（日本図書センター、平成6年9月25日刊、『日本人事録 全国篇』（第6版）日本探偵社、昭和38年9月1日刊）の復刊）558頁
- ④ 日本歴史学会『日本史研究者辞典』（吉川弘文館、平成11年6月1日刊）193頁（平成20年4月14日追加）
- ⑤ 秦郁彦編『日本近現代人物履歴事典』（東京大学出版会、平成14年5月20日刊）305頁（平成20年6月9日追加）

（昭和10年代）

・鷺巣敦哉（1896～1942）「道聴塗説」『台湾警察時報』第290号（昭和15年1月刊）、『鷺巣敦哉著作集V 雑誌所収著作』（緑蔭書房、平成12年12月10日刊）454、455頁に再録。（平成22年4月28日追加）

（昭和20年代）

・村本喜代作『交友六十年』（昭和25年刊）（第二次静岡時代のこと。未見。）

（昭和30年代）

・丸山鶴吉（1883～1956）『七十年とところどころ』（七十年とところどころ刊行会、昭和30年9月27日刊）145頁以下

- ・「調査会総会 会長に高橋雄豺氏を選ぶ 地方制度調査会」 朝日新聞昭和38年1月22日朝刊第2面
- ・「入場券小委員長 人事」 朝日新聞昭和38年6月22日朝刊第13面
- ・「人 第三次選挙制度審議会会長に就任した高橋雄豺」 朝日新聞昭和39（1964）年9月16日第2面
- ・「素顔198 選挙制度審議会会長高橋雄豺氏 信念」 朝日ジャーナル昭和39（1964）年10月18日号（第6巻第42号）87～89頁

（昭和40年代）

・「高橋雄豺さん」 大霞第30号（昭和40年7月1日刊）（「座談会 内務省回顧談—亀山孝一さん続けて語る（2）—」（2～7頁。昭和40年5月31日開催。）中の（6、7頁）、亀山孝一（1900～1979）、三好重夫（1898～1982）、司会：土屋正三（1893～1989）。（1）は大霞第29号（昭和40年4月1日刊。昭和40年2月26日開催。）に所収。）（平成20年6月13日追加、同年8月4日修正。）

- ・林政春（1906～？）『川島正次郎』（川島正次郎先生伝記刊行会、花園通信社、昭和46年刊。川島正次郎（1890～1970））38～40頁（未見。）
- ・相川勝六（1891～1973）『思い出ずるまま』（昭和47年刊）47、48、68頁（未見。）
- ・瀧静雄（1910～？）『警察今昔物語 御用提灯から機動隊まで』（新人物往来社、昭和49年9月1日刊）116、119頁等（平成20年3月22日追加）

(昭和 50 年代)

- ・「唐沢をめぐる人びと 高橋雄豺」 有竹修二『唐澤俊樹』(唐澤俊樹伝記刊行会、昭和 50 年 4 月 1 日刊) 332～334 頁(同書所収「唐沢清子夫人」(321～324 頁)も参照。)
- ・『読売新聞百年史』(読売新聞社、昭和 51 年 11 月 2 日刊) 659 頁
- ・木宮栄彦(1924～)『小泉三申—評論・逸話・年譜—』(常葉学園、昭和 53 年 9 月 1 日刊) 134～136 頁(「県政史話事件の秘話」)(平成 20 年 8 月 25 日追加)
- ・高橋雄豺氏訃報 朝日新聞昭和 54 年 8 月 27 日夕刊第 7 面
- ・中原英典「高橋雄豺先生を偲ぶ〔遺稿〕」 季刊現代警察第 20 号(昭和 54 年秋号) [1979.11.20]
- ・高橋雄豺氏訃報 『大霞』第 84 号(昭和 55 年刊) 84 頁(平成 20 年 7 月 15 日追加)
- ・桜井兵馬「高橋雄豺先生の思い出」 致遠第 65 号(昭和 55 年 6 月 10 日刊)(桜井は元中央警察学校本科第一部生)
- ・「高橋雄豺」 戦前期官僚制研究会編・秦郁彦(1932～)著『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』(東京大学出版会、昭和 56 年 11 月 30 日刊) 147 頁(平成 20 年 5 月 31 日追加)
- ・松尾尊允(1929～2014)「真理と親切」『みすず』第 276 号(昭和 58 年 8 月刊、後、同『昨日の風景 師と友と』(岩波書店、平成 16 年 4 月 28 日刊)に再録(146 頁)。)(平成 20 年 10 月 19 日追加、平成 27 年 1 月 10 日一部補正)
- ・鈴木淳一「三たび名簿にいどむ」 大霞第 98 号(昭和 59 年 9 月 1 日刊) 19～21 頁(鈴木は、『内務省史』第 4 巻所載の「幹部名簿一覧表」の編纂に参加。元読売新聞社社員か。高橋雄豺博士の思い出を記載。)(平成 20 年 7 月 22 日追加)

(昭和 60 年代)

- ・大浜正隆「高橋雄豺」 『愛媛県百科大事典』下(愛媛新聞社、昭和 60 年 6 月 1 日刊) 98 頁
- ・「高橋雄豺名誉教授」 警察大学校史編さん(ママ)委員会編集『警察大学校史—幹部教育百年の歩み—』(警察大学校校友会、昭和 60 年 3 月 25 日刊) 140 頁
- ・『座談会集 警察幹部教育百周年記念』(警察大学校校友会、昭和 60 年 12 月 1 日刊) 28 頁(「戦後草創期の警察教育(1)」中の山口喜雄(当時内務省警保局教養課長)の回想)
- ・『読売新聞発展史』(読売新聞社、昭和 62 年 11 月 2 日刊) 93 頁
- ・「土屋正三名誉教授を悼む」、「土屋正三名誉教授主要論文目録(昭和 5 年～昭和 63 年)」 致遠第 83 号(平成元年 9 月 15 日刊)(土屋正三: 警察大学校名誉教授、1893～1989.2.6)

(平成零年代)

- ・由井正臣(1933～2008)・大日方純夫(1950～)校注『官僚制 警察 (日本近代思想大系 3)』(岩波書店、平成 2 年 11 月 22 日刊)、同書付録[月報 19]「警察関係史料の現状—大日方純夫氏に聞く—」(4～7 頁)(平成 20 年 3 月 30 日追加)
- ・有山輝雄「高橋雄豺」 『現代日本 朝日人物事典』(朝日新聞社、平成 2 年 12 月 10 日刊) 941 頁
- ・佐野眞一(1947～)『巨怪伝 正力松太郎と影武者たちの一世紀』(文藝春秋、平成 6 年 11 月 1 日刊。文春文庫本(上・下)、平成 12 年 5 月 10 日刊)(主要参考・引用文献(679～702 頁)あり。御手洗辰雄『正力松太郎』(講談社、昭和 30 年 6 月 25 日刊)等正力松太郎(1885～1969)関係各書参照。)

(平成 10 年代)

- ・「高橋雄豺」 日本歴史学会『日本史研究者辞典』(吉川弘文館、平成 11 年 6 月 1 日刊) 193 頁 (平成 20 年 4 月 14 日追加)
- ・「高橋雄豺」 『日本近現代人物履歴事典』(東京大学出版会、平成 14 年 5 月 20 日刊) 305 頁 (平成 20 年 5 月 31 日追加)
- ・大日向純夫「高橋雄豺 (1889～1979) 『明治警察史研究』全 4 巻・5 冊、令文社、1960—72」 『日本史文献事典』(弘文堂、平成 15 年 12 月 15 日刊) 689 頁 (平成 20 年 4 月 14 日追加)
- ・伊藤隆 (1932～) ・季武嘉也 (1954～) 編『近現代日本人物史料情報辞典』(吉川弘文館、平成 16 年 7 月 20 日刊) ⇒高橋雄豺博士関連分: 23 頁 有松英義 (1863～1927)、109 頁 小野田元瀨 (1848～1919) (平成 20 年 7 月 17 日追加)

(平成 20 年代)

- ・「読売新聞 CD-ROM (昭和 21/1946/1/1～昭和 35/1960/12/31)」(例えば国立国会図書館所蔵) (未調査)
(平成 20 年 10 月 4 日追加)
- ・「ヨミダス歴史館」(平成 22 年 4 月 28 日追加)
(<http://mediajam.info/topic/789195>)
(<http://www.oml.city.osaka.jp/net/ref/dbmanual5.pdf>)
- ・朝日新聞社「聞蔵 (きくぞう) II ビジュアル」に、平成 22 (2010) 年 4 月から、「明治、大正期朝日新聞紙面データベース (DB)」が追加された。これにより、略年譜、目録類については、今後その作成方法の見直しが求められる。
(<http://www.asahi.com/information/db/images/release130.pdf>)
(<http://www.asahi.com/information/db/>)
- ・上記につき、『朝日新聞』平成 22 年 4 月 6 日 (火) 12 版 14、15 面に特集記事あり。特に、14 面五百旗頭薫准教授 (1974～、キーワード監修者) の解説参照。
(平成 22 年 4 月 28 日追加)
- ・本 HP 別稿「小林光政氏とは誰ぞ—大正・昭和戦前期警察史の一齣—」(HP 初出: 平成 22 (2010) 年 9 月 25 日 (土) 初稿作成 (小林光政: 1892～1962) (平成 24 年 12 月 21 日追加)
(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashimitsumasa.pdf>)
- ・大日方純夫 (1950～) 「私の研究転換—人民闘争史から警察史へ— 歴史家の本棚 第 II 架 (21)」『日本古書通信』第 998 号 (2012 (平成 24) 年 9 月号) 11 頁 (平成 24 年 12 月 21 日追加)

III 高橋雄豺博士関連文献

昭和 8 (1933) 年

- ・口絵「学会会館に於るヴォルマー教授招待」(米国加州パークレー市前警察部長、カリフォルニア大学警察学教授オーガスト・ヴォルマー) に、高橋博士、「種村文庫」の種村一男氏等の姿あり。 警察協会雑誌 389 [1933.01]

昭和39(1964)年

・高橋雄豺氏談話速記録 第1回(会期:昭和39年1月31日)、第2回(会期:昭和39年2月24日)
内政史研究会(内政史研究資料:第12、17集(印刷表記に「第13集」とあるのは「第17集」の間違いの由。)、タイプ謄写印刷)

昭和49(1974)年

・日本警察の歩みを語る(その1)―明治警察史研究を中心にして 対談:高橋雄豺・中原英典 警察研究45(9) [1974.09]

昭和50(1975)年

・日本警察の歩みを語る(その4)―警保局勤務のころ 後藤文夫、(ききて)高橋雄豺・中原英典 警察研究46(5) [1975.05]

・警察勤務の思い出(1)―日本警察の歩みを語る(5) 高橋雄豺、(ききて・註記)中原英典 警察研究46(6) [1975.06]

・警察勤務の思い出(2)―日本警察の歩みを語る(6) 高橋雄豺、(ききて・註記)中原英典 警察研究46(7) [1975.07]

・警察勤務の思い出(3)―日本警察の歩みを語る(7) 高橋雄豺、(ききて・註記)中原英典 警察研究46(8) [1975.08]

・警察勤務の思い出(4・完)―日本警察の歩みを語る(8) 高橋雄豺、(ききて・註記)中原英典 警察研究46(9) [1975.09]

昭和52(1977)年

・座談会 六十年前の静岡県庁 大霞75 [1977.01.01]4~24頁(高橋雄豺、川西実三、岡田周造、飯沼一省、小河正儀、土屋正三、司会:荻田保。昭和51年8月25日開催、於地方財務協会特別会議室)(平成20年7月15日追加)

・座談会 高橋雄豺氏 思い出を語る(上) 大霞76 [1977.06.01]2~17頁(高橋雄豺、土屋正三、萱場軍蔵、狭間 茂、水野清一、司会:荻田保)(平成20年7月15日追加)

・座談会 高橋雄豺氏 思い出を語る(下) 大霞77 [1977.09.10]12~30頁(「静岡県政史話」事件:16~18頁)(高橋雄豺、土屋正三、萱場軍蔵、狭間茂、司会:荻田保)(平成20年7月15日追加)

昭和54(1979)年

・我が国警察の歩み―「警察研究」五〇周年を記念して 座談会:高橋雄豺、土屋正三、新井 裕、山田英雄 警察研究50(1) [1979.01]

・中原英典「高橋雄豺先生を偲ぶ〔遺稿〕」 季刊現代警察20(昭和54年秋号) [1979.11.20] (重複掲載)

昭和55(1980)年

・桜井兵馬「高橋雄豺先生の思い出」 致遠65 [1980.06.10] (桜井は元中央警察学校本科第一部生)(重複掲載)

昭和60（1985）年

・「高橋雄豺名誉教授」 警察大学校史編さん〈ママ〉（委員会編集『警察大学校史—幹部教育百年の歩み—』（警察大学校校友会）[1985.03.25]140頁（重複掲載）

平成11（1999）年

・「高橋雄豺」 日本歴史学会『日本史研究者辞典』（吉川弘文館、平成11年6月1日刊）193頁（重複掲載）（平成20年4月13日追加）

平成14（2003）年

・「高橋雄豺」 『日本近現代人物履歴事典』（東京大学出版会、平成14年5月20日刊）305頁（平成20年5月31日追加）

平成25（2013）年

・黒澤良（1965～）『内務省の政治史 集権国家の変容』（藤原書店、平成25年9月30日刊）56、65、127、260頁（平成27年4月20日追加）

平成26（2014）年

・田村正博「警察法の60年—理念とプラクティスの変化—」『警察学論集』第67巻第7号（特集・警察法施行60周年、平成26年7月10日刊）（註17関係：69、80頁、註25関係：71、81頁（昭和29年5月20日、参議院地方行政委員会会議録40号関連））（平成26年7月9日追加）

令和元（2019）年

・警察政策学会警察史研究部会編『令和元年度警察史研究部会特別調査研究報告書 近代警察史関係文献目録抄—川路大警視検討を中心に—』（警察政策学会資料・別冊。令和元（2019）年10月1日刊）第2編第1 高橋雄豺博士 67～117頁（「略年譜」あり。）（令和4年8月11日追加）

（未刊のもの）

・「高橋雄豺」『近現代日本人物史料情報辞典』（吉川弘文館刊）第4巻収載予定人物一覧（平成22年4月28日確認）⇒『近現代日本人物史料情報辞典 第4巻』（吉川弘文館、平成23年2月28日刊）にも収載されず、今後の課題とされる。〈http://kins.jp/dic3_ta.html〉

（平成22年4月28日追加、同24年12月21日一部修正）

⇒伊藤隆（1932～）「史料と私の近代史 近現代史研究の第一人者が語る [14] 最終回 史料館の挫折と人物史料情報辞典」『中央公論』平成26年7月号（第129年7号、平成26年6月10日刊）180～190頁参照。（平成26年7月9日追加）⇒伊藤隆『歴史と私 史料と歩んだ歴史家の回想』（中公新書、平成27年4月25日刊）に再録。（令和4（2022）年8月11日追加）

（国会議事録関係）（平成22年4月28日追加）

・「国会議事録検索システム」参照。〈<http://kokkai.ndl.go.jp/>〉

IV 高橋雄彦博士の幻の明治警察史研究関係処女論文発見記

— 「我国に於ける警察署制度の成立と変遷」(昭和2(1927)年) —

[目 次]

- 1 問題点 ……………*
- 2 発見経緯……………*
- 3 その他判明事項……………*

1 問題点

高橋雄彦博士(1889~1979)の明治警察史研究に関する最初の論文については、高橋博士と中原英典氏(1915~1979)の対談「日本警察の歩みを語る(その1)―明治警察史研究を中心にして」『警察研究』第45巻第9号(昭和49年9月10日刊)113、114頁に、次のような興味深い記載がある。

「11 諸論稿(雑誌既掲載)について

中原 ところで、先生ご自身がこれまでご発表になった警察史についての論稿で本になったものは、さき程もお話しがあったのですが、それ以外のご論稿があったと思うのですが。高橋 明治年代のもの、早いものでは何があるかな。中原 昭和5年の『警察研究』に「巡查定員令」(傍注14:「巡查定員令」・『警察研究』第1巻(昭5)第1号。)がございますね。高橋 ああ、定員令。その前後に警察署制度の成立かあるいは沿革というのを書いたことがある。中原 それをいつかおききましたが、どうもみつからないんですけれども。高橋 どうもわからないんだ。良書普及会のじゃないかと思うんですけどね。警察署制度の成立というんで(以上113頁)す。出張所になったり、いろんなものを経ているんですね、警察署になる前に。中原 「巡查定員令」が『警察研究』の第1巻昭和5年ですね。ですから、今の警察署の方は、前だとするとあるいは『警察研究』以外かもしれませんね。高橋 あるいは、『自警』とか『警察協会雑誌』かもしれない。中原 先生のご記憶では定員令の前ですか。それとも。高橋 それがちよっとわからない。中原 その次に「明治警察史の特長」(傍注15:「明治警察史の特長」・『警察研究』第8巻(昭12)第8・9・10号。)というのがございましたね。高橋 ああ、そうそう、それがありました。

中原 特長は、『警察研究』でいうと8巻で昭和12年ですね。(以下省略)(以上114頁)

2 発見経緯

この対談中にある「警察署制度の成立」は、その後長くあれこれ探索してきたが、掲載誌不明のままであったところ、昨平成18(2006)年秋『日本経済新聞』に藤巻修一氏(皓星社代表)「次代へ残す雑誌索引検索◇明治から戦前昭和、データベース化しネットで公開◇」(同紙平成18年10月11日(水)朝刊第44面文化覧(<http://www.libro-koseisha.co.jp/sinbun/061011nikkei.gif>))が掲載され、ネットで「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」(<http://www.annex-net.jp/ks1/>)」(皓星社、平成18年春開設)なるものが利用

できることを知ったことにより、漸く発見出来た(平成18年11月頃サイト閲覧)。

尤も、後から思うと、皓星社の大部な『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』(平成6年~11年刊)

は「執筆者索引」も付いているので、これを利用すれば、いつでも検索出来たはずではあるが、労を惜しんで今日に至ったことは、寔にお恥ずかしい次第である¹。

(追記) 本「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の無償公開は、平成 20 (2008) 年 3 月 31 日で終了し、新たなものに移行したという²。ただし、本稿の記載は、従前のままにしておく。(平

¹ (追記 1: 皓星社データベース) (平成 19 年 8 月 3 日補正)

<http://www.libro-koseisha.co.jp/top01/top01.html>

(追記 2: 皓星社 HP) (平成 20 年 5 月 31 日追加)

<http://www.libro-koseisha.co.jp/>

² 本件についての皓星社のお知らせ記事関連は、次のとおりである。本データベースは極めて有用なものであるため、掲載させていただくこととする (平成 20 年 11 月 25 日修正追加)。

[参考] 「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の件

本稿作成に当たり利用できた皓星社 (<http://www.libro-koseisha.co.jp/>) の「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の無償公開は、平成 20 (2008) 年 3 月 31 日で終了し、同年 7 月 1 日より新たなものに移行したという。本件についての皓星社のお知らせ記事は、下記のとおりである。データベースは、この種資料作成上寔に貴重なものであるため、ここにも、掲載させていただくこととする。(<http://www.annex-net.jp/ks1/>) に拠る。) 。なお、『日本経済新聞』平成 19 年 12 月 16 日「フロントライン」も参照。

① (平成 20 年 8 月 19 日追加)

<http://www.libro-koseisha.co.jp/sinbun/n071216.jpg>

「お知らせ 「明治・大正・昭和前期雑誌記事データベース」の無償公開は 2008 年 3 月末日で終了いたしました。4 月 1 日 (マ) から「雑誌記事索引集成データベース」としてサービスを開始します。「雑誌記事索引集成データベース」は、戦前期の「明治・大正・昭和前期雑誌記事データベース」に、国立国会図書館の「雑誌記事索引」および岩田書院等の協力で『地方史文獻年鑑』などの地方雑誌のデータを搭載しています。これによって明治から現在まで、全国誌から地方誌までをワンストップで検索することができます。また国立情報学研究所の WEBCAT との連携で掲載誌の所蔵機関を同時に表示します。データは過去の資産 (目録、索引、総目次など) を活用しているため、訂正・追加の必要がありますが、これらの修正、一次資料との照合、追加入力、一次資料からの採録などエンドレスに作業を続けて参ります。修正や追加の情報をお持ちの方にはご協力をお願いいたします。

詳しくは下記にお問い合わせください。

所属機関の図書館または居住する地域の公共図書館

丸善株式会社 epro-j@maruzen.co.jp

株式会社皓星社 <http://www.libro-koseisha.co.jp/>」

② (平成 20 年 11 月 23 日再追加)

<http://www.annex-net.jp/ks1/>

「明治・大正・昭和前期雑誌記事データベース」無償公開は 2008 年 3 月末日で終了いたしました。7 月 1 日から「雑誌記事索引集成データベース」としてサービスを開始しました。

■明治初期から現在まで

国立国会図書館 (NDL) の「雑誌記事索引」は、昭和 23 年以降現在までを収録する邦文雑誌記事のデータベースです。ところが、この「雑誌記事索引」は、それ以前の記事は検索できません。皓星社では、それを補うため過去における雑誌記事索引類を集大成して『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』(120 巻) を刊行。雑誌記事索引集成 DB は、この『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』を基に作成されました。

今後、あらゆる目録、総目次を追加入力して、過去に刊行された全ての雑誌に掲載された記事の検索を可能にすることを目指します。また、国立国会図書館の「雑誌記事索引」のファイルを完全搭載しますので明治から現在までの雑誌記事がスムーズに検索できます。

■総合雑誌から地方誌まで

国立国会図書館の「雑誌記事索引」では、地方で刊行された多くの雑誌類が採録の対象となっておりません。これらの地方誌にも多くの重要な記事・論文が掲載されています。先進的な県や市では地元発行の雑誌や地元を対象とした記事のデータベ

成 20 年 5 月 31 日追加)

いずれにせよ、この結果、幻の論文は、「我国に於ける警察署制度の成立と変遷」『地方』第 35 巻第 4 号 (帝国地方行政学会 (現 ぎょうせい)、昭和 2 年 4 月刊) であることが判明した。ちなみに、『地方』は、『地方行政』が一時期改題されていたものであって、この変遷経緯は以下のとおりである。

『地方行政』: 第 1 巻第 1 号 (明治 28 年?) ~ 第 33 巻第 9 号 (大正 14 年 9 月)、『地方』 (改題): 第 34 巻第 10 号 (大正 14 年 10 月) ~ 第 35 巻第 5 号 (昭和 2 年 5 月)、『地方行政』 (再改題): 第 35 巻第 6 号 (昭和 2 年 6 月) ~ 第 51 巻第 12 号 (昭和 19 年 2 月、同号で廃刊)

3 その他判明事項

上記判明時に同じサイトでわかったものとして、更に下記の論稿があるが、その後ある時期の検索 (平成 19 年 3 月現在) には何故か確認できなかったことがあった (平成 20 年 3 月 13 日現在では再び確認可能)。この種ネット検索で考慮すべきこととして、当然のことながら、何らかの都合で削除ないし外されると、再確認できないということがある。したがって、その都度、必ずサイト閲覧年月日を記載し、プリントしておく必要がある。高橋博士の御論稿については、更に探究に努めることとしたい (例えば、平成 20 年 3 月 13 日現在で三編追加)。

昭和 4 (1929) 年

・ 明治十六年の地方巡察復命書 (註: 関口隆吉元老院議員視察特別書類の紹介)

(1): 地方行政 37 (6) [1929.06]、(2): 37 (7) [1929.07]、(3): 37 (8) [1929.08]、(4・完): 37 (9) [1929.09]

昭和 7 (1932) 年

・ 公民教育と警察 公民教育 (社帝国公民教育協会) 2 (11) [1932.11] (註: 編輯後記も参照)

(追記) (平成 19 年 8 月 3 日追加)

その後、同サイトで、次のことが判明した。

昭和 3 (1928) 年

ースを作成公開しています。しかし、地方の情報もそれぞれの県や市に限られるものではなく、全国誌から地方誌を横断した検索のできるデータベースの出現が待たれていました。

皓星社では、地方史研究協議会ははじめさまざまな機関・個人の協力を得て、地方誌の論文・記事、総目次などの入力を開始しこれらの検索を可能にしました。これによって、全国誌から地方誌までの雑誌記事がシームレスに検索できます。

■記事検索から所蔵情報まで

検索しても目的の記事を手に入れるためには、雑誌の所蔵情報が必要です。そのため国立情報学研究所 (NII) の協力で、検索結果と同時に NII の Webcat の検索結果および国立国会図書館 (NDL) の OPAC の検索結果を表示。これによって、国立国会図書館および全国の大学等の当該雑誌の所蔵状況をワンストップで知ることができます。

■新旧字対応を可能にする独自の用語集

雑誌記事索引集成 DB は、明治から現在まで 150 年近い期間と、さまざまな目録を一つにまとめるものですので、用字用語の変遷に対応する独自の用語集を構築しています。したがって、たとえば「蘇聯」「ソ同盟」「ソウエート」なども「ソ連」、「加奈陀」も「カナダ」と入力することで検索できます。雑誌『白樺』では、ゴッホは「ゴオホ」と表記されていますが、ゴッホと入力すれば、「ゴオホ」もヒットします。これは今後も改良を重ねます。データは過去の資産 (目録、索引、総目次など) を活用しているため、訂正・追加の必要がありますが、これらの修正、一次資料との照合、追加入力、一次資料からの採録などエンドレスに作業を続けて参ります。修正や追加の情報をお持ちの方にはご協力をお願いいたします。詳しくは下記にお問い合わせください。

所属機関の図書館または居住する地域の公共図書館

丸善株式会社 epro-j@maruzen.co.jp

株式会社皓星社 <http://www.libro-koseisha.co.jp/>

- ・「明治四年に於ける静岡市消防組に関する規定」 大日本消防 2 (3) [1928.03.01]25～29 頁 (内容「明治四年の消防組に関する規則及びこれに対する請書並に其の規定制定後間もなく発せられたる訓令」の原文紹介)

V 高橋雄豺博士 (1889～1979) の処女著書『日本警察法正義 (要義?)』乃至『警察法大綱』覚書

[目 次]

1 はじめに ……………*

2 高橋博士処女著作関係文献 ……………*

3 『註釈 警務全書』との関係 ……………*

4 『改訂警察法大綱』との関係 ……………*

5 小括 ……………*

 (追記) 前有松 (英義) 警保局長序 関西大学講師 法学士草刈融・
 前警務長植松金章共著『註釈 警務全書』(詳論篇、東京 松華堂蔵版、
 明治 44 年 5 月 9 日刊、大正 9 年 8 月 30 日増訂 24 版刊) について ……………*

 (参考) 松華堂編纂『新警察練習書』の件 ……………*

 (類書検討) ……………*

1 はじめに

高橋雄豺博士の処女著書については、先に『高橋雄豺博士・田村豊氏・中原英典氏等略年譜・著作目録並びに『警察協会雑誌』資料一斑等—明治警察史雑纂 第二輯—』(平成 19 年 3 月 1 日刊、CD 版有。) 1～27 頁掲載の「高橋雄豺博士略年譜・著作目録 (改訂稿) —日本警察史研究者著作目録 (1) —」中で、「大正 7 (1918) 年 1 日本警察法正義 (要義?) 松華堂 (11 月 26 日刊、未見) (後掲『5 改訂 警察法大綱』〈昭和 2 (1927) 年 8 月 7 日刊〈同書改訂四版奥付では何故か「7 月 14 日改訂再版発行」とある。〉) の前身。後に、本書は『警務全書』中の「警察法」に入れし由とのため、例えば草刈 融『注釈 警務全書』〈訂正増補、松華堂、昭和 4 年 10 月刊〉等との関連を調査中。」(4 頁) 及び「昭和 2 (1927) 年 5 改訂 警察法大綱 松華堂 (8 月 7 日改訂再版刊) (前身は上記『1 日本警察法正義 (要義?)』〈大正 7 (1918) 年 11 月 26 日刊〉)」(4 頁) と誌したが、今般多少検討する機会を得たので、以下にその一端を記載しておく。

2 高橋博士処女著作関係文献

高橋博士の処女著作について、文献① 高橋雄豺「私の書いた本」『致遠』第 25 号 (昭和 35 年 6 月 15 日刊) 126 頁以下には、『日本警察法正義 (要義?)』(大正 7 (1918) 年 11 月 26 日刊。ここで、博士も、同書の正式名称を失念されたといわれる。) とあるが、その後、文献② 高橋雄豺・(ききて・註記) 中原英典 (1915～1979) 「警察勤務の思い出 (2) —日本警察の歩みを語る (6)」『警察研究』第 46 巻第 7 号 (昭和 50 年 7 月刊) (7) 38、39 頁には、高橋博士の発言、中原氏の註として、次のようにある。なお、□ 内は編者が付した。

「それからもう一つ、これは職務に関係ないが、私が自分の著書というものを初めて書いたのもこの頃〔大正5年7月7日任静岡県警視、警察部保安課長、大正8年9月11日任静岡県理事官、内務部学務課長〕です。それは、松華堂の横尾（留治）さんが、未だ和服で方々歩いている頃だ。よく夜行で静岡に来て、朝早く私の官舎へやって来た。私の著書の第一号というのは、その時横尾さんに頼まれて出来たのです。大正七年、「警察法大綱」〔中原註〕（5）＊。これは初め単行本で書いたのを、後で横尾さんが「警務全書」に入れた。もともとは「全書」のために書いたのではなかったのです。

＊〔中原註〕（5）「警察法大綱」の初版（101頁定価六十銭）は大七・一一・二六発行のようであるが、註記者の手許には無い。あるのは、昭二・七・一四松華堂発行の改訂再版〔改訂版の件につき、「警察勤務の思い出（3）—日本警察の歩みを語る（7）」『警察研究』第46巻第8号（昭和50年8月刊）52頁参照。〕である。それはA五版本文三二七頁で、内容は総論（警察の観念・警察機関・非常時に於ける警察組織・警察作用・警察作用に関する行政救済）及び各論（保安・風俗・交通・産業・衛生の各警察）に分けられている。」

3 『註釈 警務全書』との関係

上記文献①、②の二篇を併読すると、このあたりの経緯がいささか不明である。これというのも、『日本警察法正義（要義？）』又は『警察法大綱』の初版なるものが、図書館検索ではもとより、ネット検索でも見つからず、かつ、『警務全書』との関連もはっきりしないためである。しかるに、今般、『警務全書』の一部を見ることができたので、これらについて僅かながら判明した。

今回閲覧できた『警務全書』は、関西大学講師・法学士草刈 融著『註釈 警務全書（詳論篇）』（松華堂（発行者 横尾留治）、大正12年11月25日増訂44版）であるが、同書奥付（「訂正増補警務全書詳論篇奥付」）の記載がある。）には、「明治44年5月9日発行、大正11年11月20日増訂32版発行」の記載もある。戦前の奥付の刊行記載慣用がよくわからないので、この増訂と版数との関係が何を指すのか不明であるが、高橋博士は、文献①で、関東大震災（大正12（1923）年9月1日発生）後に、前記松華堂主人横尾留治氏の希望で、前の本を書き直し、『警察法大綱』として昭和2（1927）年7月に出版し、前のものは『警務全書』の中の「警察法」として入れた（①127頁）といっておられるので、大正11年11月20日刊の増訂32版（遅くともこの大正12年11月25日刊の増訂44版）に、横尾氏により、高橋博士『警察法大綱』の初版である『日本警察法正義（要義？）』が、「警察法大綱」として、草刈 融著『註釈 警務全書（詳論篇）』中の「警察法（総論 各論）」に転用されたと見ることができる。なお、同書は、そのほとんどは草刈氏が執筆したものと思われるが、「警察法（総論 各論）」その他一、二に、他者に執筆依頼をしたものがあり、そこにはそれぞれの講述者の氏名が出ている。

この「詳論篇総目次」では、「法学通論」、「憲法」以下の記載があって、「警察法（総論 各論）1-102」とあるが、その冒頭頁を見るに、「警察法大綱 高橋雄彦述」との記載がある。したがって、高橋博士の『警察法大綱』の初版である『日本警察法正義（要義？）』が、「警察法大綱」に改題の上、「警察法（総論 各論）」として、そのままここに組み入れられていることがわかるが、これら一連の著作の作成、転用経緯を示す記述は何もない。なお、全体の通し頁はない。

また、当該『註釈 警務全書（詳論篇）』の目次には、「要論篇総目次」と「詳論篇総目次」の記載があるので、今回紹介した『註釈 警務全書（詳論篇）』の他に、その簡略版ともいえる『註釈 警務全書（要論篇）』が別に刊行されていたと思われ、現にネットの古書市場では、『註釈 警務全書（要論篇）』の掲

載もある（例えば、「商品 No. 3470251 書籍名 註釈警務全書 著者名 草刈融他 出版社 松華堂 発行年 T.10 詳細 印函欠要論篇 価格 3,000 円 販売店 古書店林語堂（青森市）（平成 20 年 3 月時点））が、こちらは現段階では未見である。よって、これの「警察法」と高橋博士のものとの関係はなお不詳であるが、「要論篇総目次」には「警察法（総論）1-30」とあるので、上記「警察法大綱」総論と頁数が同じことからしても、おそらくや草刈融著『註釈 警務全書（詳論篇）』中の高橋博士「警察法大綱」の「第一編 総論」部分を、そのまま充当したものと推測される。なお、草刈融氏は、松華堂から法学関係の多くの著作を出しているが、同氏についても、現時点では、詳しいことは不明である。

このほか、下記（参考）松華堂編纂『新警察練習書』（松華堂、昭和 9 年 3 月 20 日刊）の巻末広告には、「松華堂編纂『註釈 警務全書』（第百四十版）」なるものが出ているが、これは、本草刈融著『註釈 警務全書（詳論篇）』の系譜を引くものと思われるが、詳細は不明である。

4 『改訂警察法大綱』との関係

次に、中原英典氏も御所蔵だったという高橋博士『改訂警察法大綱』であるが、今回改めて見ることができたのは、「昭和 2 年 8 月 7 日刊」の改訂再版及び「昭和 2 年 11 月 24 日刊」の改訂 4 版である。それに記載の「改訂第二版序（昭和 2 年 7 月）」には、「1、本書は著者が嘗て警察に職を奉ぜる頃、専ら現任警察官に対する教養の資料として編述したるものに係る。爾来殆ど十年を経、其の間法令の改廃せられたるもの頗る多し。今回版を改むる際し、之を修訂すると共に其の他の部分に就ても多少の補正を加へたり。（中略）昭和二年七月 静岡市に於て 著者（註：昭和 2 年 5 月 17 日任静岡県書記官、内務部長）」とあり、また、その改訂再版奥付には「大正 7（1918）年 11 月 26 日発行、昭和 2（1927）年 8 月 7 日改訂再版発行、改訂四版奥付には「大正 7 年 11 月 26 日発行、昭和 2（1927）年 7 月 14 日（ママ）改訂再版発行、昭和 2 年 9 月 26 日改訂三版発行、昭和 2 年 11 月 24 日改訂四版発行」とあるので、『警察法大綱』の初版である『日本警察法正義（要義？）』は、大正 7（1918）年 11 月 26 日発行とほぼ確定できる。

5 小括

以上、これを要するに、高橋雄毅博士の処女著書は、『日本警察法正義（要義？）』（松華堂、大正 7 年 11 月 26 日刊、未見）であり、それが、「警察法大綱」と改題されて、草刈融著『註釈 警務全書（詳論篇）』の大正 11 年 11 月 20 日刊増訂 32 版（遅くとも大正 12 年 11 月 25 日刊増訂 44 版）に組み入れられ、また、それとは別に、改訂版が作成されて、昭和 2（1927）年 8 月 7 日（又は 7 月 14 日）に『改訂警察法大綱』として新たに刊行されたものと思われる。そもそも、文献①がマイナーな雑誌であってなかなかこれを知り得ず、かつ、文献②に『改訂警察法大綱』のそもそもの初版である『日本警察法正義（要義？）』の名称が出てこないこと等が、いろいろ惑わされる原因であると思われる。いずれにせよ、本件は、未だ不明な点も多いので、更なる御示教をお願いする次第である。

（平成 20 年 3 月 22 日初稿作成、同年 3 月 30 日改題、補正稿作成、同年 4 月 13 日再補正、同年 8 月 4 日再々補正）

（追記）前有松（英義）警保局長序 関西大学講師 法学士草刈融・前警務長植松金章共著『註釈 警務

全書』(詳論篇、東京 松華堂蔵版、明治44年5月9日刊、大正9年8月30日増訂24版刊)について
(平成20年7月27日追加)

今般、ヤフオクで、標記前有松警保局長序 関西大学講師 法学士草刈融・前警務長植松金章共著『註
積 警務全書』(詳論篇、東京 松華堂蔵版、明治44年5月9日刊、大正9年8月30日増訂24版刊。以
下「本版」ともいう。)を入手した(平成20年7月28日閲読)。なお、植松金章の肩書である警務長と
は、明治末期に明治38(1905)年4月18日勅令第140号に従来の警部長が改称されたもの(明治38
年4月18日勅令第140号「地方官官制」)であり、大正初めに至り、警察部長となる(大正2年6月13
日勅令第151号「地方官官制」)。

植松金章については、例えば、次のような文献がある(本文献関連部分:平成20年11月25日修正、
追加)(平成22年4月28日追加)

・「校友 弁護士 区会議会員 植松金章君」『日本法政新誌』第16巻第9号(大正8年9月10日刊)「校
友の活動振り」:87、88頁

・「植松金章君」『日本法曹界事典』第8巻(〔弁護士篇〕〔弁護士時代II〕)(全10巻)、ゆまに
書房、平成8年1月25日刊)68、693頁(原本68頁:『日本弁護士総覧 第1巻』(東京法曹会、明
治44年8月30日刊)、693頁:『日本弁護士総覧 合本』(東京法曹会、大正4年8月1日刊))

これらによれば、植松は、千葉県人、明治20(1887)年上京して中村敬宇(1832~1891)の同人社
に入り、その後、明治29(1896)年に日本法律学校(日本大学の前身)を卒業し、翌々31(1898)年
には当時の三大国家試験である判検事登用試験、弁護士試験及び文官高等試験(高文)に及第し、司法
官、行政官として官場で活躍すること十有余年、弁護士になった人物で、なかなかの手腕家であったと
いう。官界では、明治39(1906)年7月28日に徳島県事務官から栃木県警務長に転じ、明治43(1910)
年5月まで在任し、退官している(『栃木県警察史』下巻(栃木県警察本部、昭和54年5月15日刊)
1466頁参照。)

・肖像「本会栃木県支部長 栃木県事務官 植松金章君」『大日本消防協会雑誌』第43号(第5年第2号、
明治40(1907)年2月25日刊)口絵(平成22年4月28日追加)

『註積 警務全書』については、例えば、「総合目録ネットワークシステム」
(<http://unicanet.ndl.go.jp/psrch/redirect.jsp?type=psrch>)で検索すると、本版より古い版には、横浜市
中央図書館(第11版、大正3(1914)年刊)及び札幌市中央図書館(大正6(1917)年刊)各所蔵のも
のがあるが、以下では、まず、横浜市中央図書館所蔵本を取り上げ、次いで、本版を検討しておく。

横浜市中央図書館所蔵本を確認するに、「前有松警保局長序 前(マ) 関西大学講師 法学士草刈融・
前警務長植松金章共著『註積 警務全書』(東京 松華堂、明治44年5月9(?)日刊、大正3年4月1
日増訂9版刊、大正3年8月23日増訂10版刊)とある。この「警察法」関係には、前警務長植松金
章名義の「簡易警察法」が挿入されている。これは、目次や本文の最後では、「簡易警察学」となってい
る。このあたりの状況は、不明であるが、「警察法」関係の当初は、前警務長植松金章のものが入ってい
たことになる。なお、植松金章が執筆した箇所は、この「簡易警察法」のみで、他の主要部分は草刈 融
が、その他特殊な箇所はそれぞれの専門家に書かせたようである。

しかるに、大正9(1920)年8月30日増訂24版刊の本版には、高橋雄彦述『警察法大綱』が掲載さ
れており、これまでの間に、植松金章の「簡易警察法」が、既に、高橋博士の『警察法大綱』に取り替
えられていることが確認できる。

上述のように、『警察法大綱』の単行本の初版である『日本警察法正義（要義？）』は、大正7（1918）年11月26日発行とほぼ確定できるが、それが、大正9年8月30日の時点では、『註釈 警務全書』に既に収録されているわけで、今後は、『日本警察法正義（要義？）』原本そのものを見る機会が得られることを期待したい。

横浜市中央図書館所蔵本や本版には、初版刊行（明治44年5月9（？）日刊）当時の警務局長有松英義（1863～1927）の次のような「序」があることから、本書の編纂経緯が判明する。これよりすると、その後本来の著者である植松金章が逝去するか何かあったためにより、ある時期以降の版より、草刈 融の単著となったものと推測される。

「序

植松金章君其著警務全書ノ稿本ヲ携へ来リ告ケテ曰ク余身ヲ司法官ニ起シ転シテ行政ノ局ニ当リ警察ノ職ニ在ルコト最久シ去年辞シテ弁護士トナルヤ余閑ヲ偷テ此著アリ法学士草刈融君法令ヲ論評シテ頗ル備ハレリ今収メテ之ヲ合輯ス聊カ警察官実務上ノ参考ニ供セント欲スト夫レ警察ノ事故タルヤ千状万態能ク機微ニ察シ変化ニ応シテ事宜ヲ制スルニ非サレハ・・・・・・・・・・・・・・・・

明治四十四年六月五日 有松英義

（参考）松華堂編纂『新警察練習書』（松華堂、昭和9年3月20日刊）の件

平成20（2008）年4月4日、とある古書市で、たまたま松華堂編纂『新警察練習書』（松華堂、昭和9年3月20日刊）を見かけた。これは、高橋雄才「警察法大綱」を収録した上記草刈融著『註釈 警務全書（詳論篇）』（松華堂、明治44年5月9日刊、大正11年11月20日増訂32版刊、大正12年11月25日増訂44版刊）とよく似た構成の著書であって、その「総目次」には、「警察法（総論 各論）」があり、当該箇所には、「警察法要論」なるものが収録されていて、頁数では、「総論 1-60 頁、各論 61-301 頁」とある。ここで、思い出されることは、田村 豊（1899～1933）『警察法要論』（松華堂書店、昭和7年7月8日（又は8月30日）刊。『現行警察法汎論』（大学書房、昭和5年11月27日刊）の改訂版。この後、昭和8年3月2日再版刊、昭和9年4月10日三版刊、昭和10年2月10日増訂四版刊、昭和11年6月2日増訂五版刊）のことである。題名も同じであり、例えば、増訂版ではあるが、同書増訂五版を見るに、「総論 1-60 頁、各論 61-301 頁」とあるので、おそらくや、田村豊『警察法要論』をそのまま転用収録したものかと推測されたため、同年4月12日、改めて『新警察練習書』について調べてみた。大要は、以下のとおりである。

① 松華堂編纂『警察練習書』（上、下巻）（松華堂、上巻：昭和7年11月14日刊、下巻：昭和8年1月30日刊、編者：松華堂）：下巻に、「警察講習所教授 法学士田村豊『警察法要論』」の表示があつて、同書（総論 1-60 頁、各論 61-301 頁）が収録されている。これで、田村氏の著書がそのまま転用されたことが判明する。ただし、全体の通し頁はない。なお、田村氏は、同昭和8（1933）年11月25日に逝去されている。

② 松華堂編纂『新警察練習書』（松華堂、昭和9年3月26日（ママ）印刷、同年3月30日（ママ）刊、編者：松華堂編集部、広告不明）：上記『警察練習書』（上、下巻）を増補の上一冊にしたもので、「総目次」に「警察法（総論 各論）」とあり、田村豊『警察法要論』（総論 1-60 頁、各論 61-301 頁）が収録されているが、ここでは田村氏の著者表示はない。これも、全体の通し頁はない。巻末広告は、今回見たものでは確認できていない。

③ 松華堂編纂『新警察練習書』（松華堂、昭和10年6月18日増訂七版刊、編者：松華堂編集部）：「総目次」に「警察法（総論 各論）」とあり、田村豊『警察法要論』（総論1-60頁、各論61-301頁）が収録されているが、田村氏の著者表示はない。なお、同書奥付には、「昭和9年3月16日〈マ〉（印刷、同年3月20日〈マ〉刊、同年3月26日再版刊、同年5月10日三版刊、同年8月4日四版刊、同年10月10日五版刊、同年11月20日六版刊、昭和10年6月18日増訂七版刊」とある。これも、全体の通し頁はない。巻末広告に、「松華堂編纂『註釈 警務全書』（第百三十五版）」が出ている。

なお、田村豊『警察法要論』（松華堂、昭和11年6月2日増訂五版刊）の巻末広告では、松華堂編纂『註釈 警務全書』（第百四十版）とともに、松華堂編集部編『新警察練習書』（十版）が出ている。両書は、おそらく、上記二書（草刈融著『註釈 警務全書（詳論篇）』、松華堂編纂『新警察練習書』）に繋がっているものと思われる。

（平成20年4月14日追加）

（類書検討）

（平成20年7月19日追加）

警察関係の「練習書」という書物としては、夙に『警務練習新書』（警視庁第一部長太田政弘君（1870～1951）序、法学士佐々木秀司君（1880～1934）、法学士鳩山一郎君（1883～1959）合著、警察学会刊、明治41年11月5日刊）なるものがあり、これは、例えば、平成20年7月15日～22日、ヤフオクに出品されていた（<http://page11.auctions.yahoo.co.jp/ip/auction/n15741055>）、希望落札価格12,900円）。なお、平成20年10月4日現在でも、未だ同一ヤフオクに掲載されている（平成20年11月25日現在では削除されている。）。ちなみに、同書は、現在では、国立国会図書館近代デジタルライブラリー（<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>）で閲覧可能である。

VI 高橋雄豺博士関係編著『静岡県政史話』について

—「高橋雄豺博士著作目録」補遺—

従前、高橋雄豺博士（1889～1979）の著作目録³中の「(II) 編書その他」で、「(調査中)『静岡県誌』（昭和2～4年?）（静岡県内務部長時代、執筆者：吉江勝保、青柳秀夫、小畑治和）」とした記述につき、今般、漸く正しいものが判明したので、この機会に、補正しておく。

高橋博士が静岡県内務部長在任中（昭和2（1927）年5月17日～同4年7月8日）に編纂に関与した静岡県史関係のものが、政友会、民政党両者から問題が指摘されたことについては、例えば、「高橋雄豺氏談話速記録 第1回（会期：昭和39年1月31日）、第2回（会期：昭和39年2月24日）内政史研究会（内政史研究資料：第12、17集（印刷表記に「第13集」とあるのは「第17集」の間違いの由。）、タイプ謄写印刷）」中第1回23、24頁の記述で判明していたが、編者の不手際その他いろいろあって、肝腎の当該著作の表題の確定がはっきりできず、上記「高橋雄豺博士著作目録」作成時には、取りあえず、上述のように、「(II) 編書その他」「(調査中)『静岡県誌』（昭和2～4年?）（静岡県内務部長時代、執筆者：吉江勝保、青柳秀夫、小畑治和）」としておいた⁴。

³ 『高橋雄豺博士・田村豊氏・中原英典氏等略年譜・著作目録並びに『警察協会雑誌』資料一斑等—明治警察史雑纂 第二輯一』（平成19年3月1日刊、CD版有。）1～27頁掲載の「高橋雄豺博士略年譜・著作目録（改訂稿）—日本警察史研究者著作目録（1）—」。その後も、本HPで逐次改訂中（前回第七次補正稿：平成20年年5月31日作成）であった。

⁴ （追記）今般、他用があって、内政史研究会『高橋雄豺氏談話速記録 第1回（会期：昭和39年1月31日）』、（内政史研究資料：第12集）及び「警察勤務の思い出（4・完）—日本警察の歩みを語る（8）」高橋雄豺、（ききて・註記）中原英典『警

しかるに、最近、「知事は語る（高橋雄豺「県政史話」）」『内務省外史』（大霞会、昭和52年11月11日刊）191～193頁（同書附記によれば、会報『大霞』掲載のものを編集部において適宜圧縮して作成したものとこと。ただし、初出誌不明。）を新たに補充できた（平成20年5月31日追加）⁵ので、これに基づき、改めて、「静岡」＋「県政史話」でネット検索したところ、当該著作は、『静岡県政史話』（静岡県、昭和4年5月20日刊）であることが判明した。更に、今般、同書の復刻版である『静岡県政史話』（静岡県図書館協議会、昭和51年10月15日刊）⁶を見たところ、同復刻版カバーに、「県政史話焼却事件とは？」が新たに印刷されており、これでも、上記問題の経緯の一端を窺うことができる。なお、同記載によれば、本書は、高橋雄豺静岡県内務部長の下にあった五名の少壮気鋭職員によって執筆・編集されたが、うち二名の県属中、青柳とは青柳秀夫（1897～1986、元愛知県知事（民選初代）、参議院議員）、同吉江とは吉江勝保（1900～1970、元山梨県第42代（官選）、第44代（民選初代））であるという。

（平成20年6月8日追加、同年6月13日修正、同年7月27日再修正）

（追記）（平成20年7月15日）

今般、本件に関する高橋雄豺博士の回想記として、下記の文献に接した。いずれ、機会を得て、再度検討する予定でいるが、今は、取りあえず文献名のみを掲げておく。

昭和52（1977）年

・座談会 六十年前の静岡県庁 大霞75 [1977.01]4～24頁（高橋雄豺、川西実三、岡田周造、飯沼一省、小河正儀、土屋正三、司会：荻田保。昭和51年8月25日開催、於地方財務協会特別会議室）（平成20年7月15日追加）

・座談会 高橋雄豺氏 思い出を語る（上） 大霞76 [1977.06.01]2～17頁（高橋雄豺、土屋正三、萱場軍蔵、狭間茂、水野清一、司会：荻田保）（平成20年7月15日追加）

察研究』第46巻第9号（昭和50年9月刊）を改めて見る機会を得た。それらによれば、当該書籍名は、もちろん『静岡県政史話』とある（前者23、24頁、後者30頁）。本「著作目録」の初稿は平成17（2005）年5月1日作成であるが、当時はネットの検索技量が未熟で、『静岡県政史話』の所蔵図書館を探し得ず、こうしたことからか、何故か「（調査中）『静岡県誌』（昭和2～4年?）」とした可能性が強い。極めて大きな間違いであり、ただただ無知、不明を恥ずる次第である。ここに訂正しておく（平成20年8月2日追加）。なお、木宮栄彦（1924～?）『小泉三申—評論・逸話・年譜—』（常葉学園、昭和53年9月1日刊）134～136頁は、本件に関する興味深い「県政史話事件の秘話」を掲載している（平成20年8月25日追加）。

⁵ その後、同稿は、高橋雄豺「香川県知事時代の思い出」『大霞』第32号（昭和41年1月1日刊）9～11頁が初出誌であることが判明した。なお、これに関連して、「高橋雄豺さん」『大霞』第30号（昭和40年7月1日刊）（「座談会 内務省回顧談—亀山孝一さん続けて語る（2）—」（2～7頁）中の（6、7頁）、亀山孝一（1900～1979）、土屋正三（1893～1989）、三好重夫（1898～1982）等）参照。（平成20年6月13日追加）。加えて、末尾「（追記）（平成20年7月15日）」参照。（平成20年7月15日追加）。

⁶ 静岡市・あべの古書店HPには、次のような記載がある（平成20年6月1日閲覧）。「静岡県政史話（復刻版）／静岡県図書館協議会／昭和51。カバー。不美／本書の原本は、昭和4年。県会開設50周年を記念して、明治初期から昭和初期にわたる歴代知事の業績を中心に、過去半世紀にわたる県政の変遷を概述し、県当局が刊行したものの、ある種の事情から公にされず、廃棄処分を憂き目を見たものである。爾來50年、原本の資料的価値が再びみなおされ、県政百年を期に、静岡県図書館協議会より復刻・再刊されたが、現在では絶版となっている。／3500円」

・座談会 高橋雄豺氏 思い出を語る (下) 大霞 77 [1977.09.10]12~30 頁 (「静岡県政史話」事件: 16~18 頁) (高橋雄豺、土屋正三、萱場軍蔵、狭間茂、司会: 荻田保) (平成 20 年 7 月 15 日追加)

VII その他

1 未刊のもの

・「高橋雄豺」『近現代日本人物史料情報辞典』(吉川弘文館刊) 第 4 巻収載予定人物一覧(平成 21 年 3 月 15 日閲覧、同 22 年 4 月 28 日確認)に記載されていたが、『近現代日本人物史料情報辞典 第 4 巻』(吉川弘文館、平成 23 年 2 月 28 日刊)には結局収載されず、「史料情報辞典 今後の収載予定人物一覧」中に表示されている。 (http://kins.jp/dic3_ta.html) (平成 24 年 9 月 21 日追加)

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧 (抄) (令和 4 (2022) 年 8 月 11 日追加)

- ・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>
- ・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄一本 HP 掲載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』検討資料」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>
- ・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』(増訂三版、明治 25 (1892) 年 2 月 18 日刊)」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>
- ・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>
- ・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑(碑文全文、付句読点文、書下し文)—故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安禎撰—明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf>
- ・「佐和正関係文献抄—明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf>
- ・「坂元純熙、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問い合わせを追って—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf>
- ・「国分友諒顕彰碑について—原田弘先生のお教えに接して—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshoji.pdf>
- ・「篠崎五郎関係資料抄—台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人—明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf>
- ・「後藤松吉郎とは誰ぞ—明治警察史・日本統治下台湾警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf>
- ・「裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑—明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf>
- ・「『無冤録述』検討一斑—江戸期及び明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf>
- ・「続・『無冤録述』の初歩的検討—江戸期及び明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf>
- ・「ヘーン大尉関係文献抄(再訂稿)」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf>
- ・「明治中葉警官練習所訳官久松定弘等及び筆記者井土経重(霊山)検討一斑—明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yakkan.pdf>
- ・「岩瀬忠震関係文献抄(六訂稿)—向島・ヘーン大尉表功碑探訪余聞—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/iwase001.pdf>
- ・「内務省警視局御用御書物師須原鉄二とは誰ぞ—明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/subara.pdf>
- ・「清水書店とは何ぞや—須原鉄二との関連で—明治・大正警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shimizushoten.pdf>

- ・「須原鉄二と清水書店創業者葉多野太兵衛について—明治・大正期出版業史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hatano001.pdf>
- ・「警察監獄学会及び『警察監獄学会雑誌』検討一斑—明治警察史の一齣—」（本稿）
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugakkai.pdf>
- ・「警眼社社主田山宗堯とは誰ぞ—『警察協会雑誌』との関連をめぐって— —明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tayama.pdf>
- ・「松華堂乃至松華堂書店とは何ぞや—明治警察史の一齣—」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shokado.pdf>
- ・「高橋雄豹博士著作目録（再訂稿）」
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf>

【関連事項】（令和4年8月11日追加）

- ・法制史学会: <https://www.jalha.org/>
- ・国立国会図書館: <https://www.ndl.go.jp/>
- ・国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/>
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和4（2022）年5月19日開始）
https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和4（2022）年4月1日追加）
<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>
- ・CiNii: <https://ci.nii.ac.jp/> ⇒ <https://cir.nii.ac.jp/>（【[2022] 4/18 更新】 CiNii Articles の CiNii Research への統合について）、<https://ci.nii.ac.jp/books/>

（了）

(目次再掲)

高橋雄豺博士著作目録(再訂稿)(第二十一次補正稿)

(令和4(2022)年8月11日(木)現在)

[目次]

〔作成経緯〕	2
〔補正経緯〕	3
はじめに	(省略)
I 略年譜	6 (省略)
II 著作目録	7
(I) 著書・共著	7
(参考) 中訳本の件	13
(II) 編書その他	13
(III) 論説その他	15
(IV) 関係文献	31
III 高橋雄豺博士関連文献	34
IV 高橋雄豺博士の幻の明治警察史研究関係処女論文発見記—「我国に於ける警察署制度の成立と変遷」(昭和2(1927)年)—	37
V 高橋雄豺博士(1889~1979)の処女著書『日本警察法正義(要義?)』乃至『警察法大綱』覚書	40
VI 高橋雄豺博士関係編著『静岡県政史話』について—「高橋雄豺博士著作目録」補遺—	45
VII その他	47
【附録】明治警察史コーナーHP項目一覧(抄)	48
【関連事項】	49
(目次再掲)	50

(了)